平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）
分担研究報告書

メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の整備、及び健やかな親子関係のための妊娠期からはじまる支援施策についての研究

研究分担者　立花良之　（国立成育医療研究センター こころの診療部
乳幼児メンタルヘルス診療科）

研究要旨

メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の整備を目的とした。日本周産期メンタルヘルス学会の「周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド 2017」の CQ で「メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する、緊急度／育児・家庭環境／児の安全性確保に留意した医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の仕方は？ 」を設定し、連携と対応方法のモデルを作成した。また、「周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド 2017」を踏まえ、産婦健康診査事業実施内容の策定について、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課と本研究班が検討し、産婦健康診査事業実施に当たり留意するべき案をまとめ、2017 年 3 月 31 日付で各都道府県・保健所設置市・特別区母子保健主管部（局）に対し厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長通知として施策化された。健康診査を受ける全産婦について医療機関と自治体とが情報共有し、連携して対応することが施策化されたが、今後、妊婦についても情報共有をした上で妊娠期からの切れ目のない支援を行っていく施策についての検討が必要であると考えられる。

メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の均てん化のために、研修パッケージを作成し、全国の母子保健関係者（保健師・助産師・看護師・産科医・小児科医・精神科医・医療ソーシャルワーカーなど）を対象に厚生労働省子どもの心の診療ネットワーク事業で研修会を行った。また研修の内容を書籍化した。本研究班が子どもの心の診療ネットワーク事業で行った「母子保健メンタルケア指導者研修」のような親子の心のケアについての研修は、子どもの心のケアを親子の視点でとらえ子どもの心の診療ネットワーク事業をより包括的かつ臨床的に有効な心のケア事業にすることにつながると考えられる。メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対するケアの地域の多職種連携の中に、子育て支援機関が含まれることが全国的に広がっていくことが望まれる。

平成 28 年度 厚生労働科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」研究班（研究代表者　山縣然太朗）と本研究班が協働し、健やかな親子関係のための重要なポイントを明らかにし、それをもとにした啓発を行った。本研究班では、健やかな親子関係を構築するうえで、「地域とつながっている家族」、「親子のコミュニケーションが良好」、「子どもを傷つけない」、「親子の役割が明確」、「親子で価値観を共有できる」が重要であることが明らかになったが、今後、啓発活動を行い、その効果検証についてのさらなる研究が必要と考えられる。

研究協力者
山縣然太朗（山梨大学大学院総合研究部
医学域基礎医学系
社会医学講座）
松浦賢長　（福岡県立大学看護学部
ヘルスプロモーション看護学系）
山崎嘉久　（あいち小児保健医療総合センター）
尾島俊之　（浜松医科大学医学部
健康社会医学講座）
市川香織　（文京学院大学
保健医療技術学部　看護学科）
篠原亮次　（健康科学大学健康科学部）
岩佐景一郎（山梨県福祉保健部
健康増進課）
秋山有佳　（山梨大学大学院総合研究部
医学域基礎医学系
社会医学講座）
傳田純子　（長野県須坂看護専門学校）
小泉典章　（長野県精神保健福祉センター）
中澤文子　（長野県健康福祉部
保健・疾病対策課
母子・歯科保健係）
高祖常子　（認定 NPO 法人 児童虐待防止
全国ネットワーク）
齋藤尚大　（横浜カメリアホスピタル）
久貝太麻衣　（国立成育医療研究センター
教育研修部）
水本深喜　（国立成育医療研究センター
こころの診療部）
浅井かおり（国立成育医療研究センター
こころの診療部
乳幼児メンタルヘルス診療科）
藤本敦子　（国立成育医療研究センター
こころの診療部
乳幼児メンタルヘルス診療科）
山田道子　（国立成育医療研究センター
こころの診療部
乳幼児メンタルヘルス診療科）

A. 目的

本分担研究では、まず、メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の整備を目的とした。

本研究の当初計画では、健診での妊産褥婦のメンタルヘルスケアについての評価方法の検討や自治体との連携の仕組みづくりを主目的としていたが、それに加えて家庭の在り方を考慮に入れた「健やか親子関係 3 つのポイント（仮称）」を活用した妊産褥婦のメンタルヘルスに対する介入方法を検討することが研究計画上必要と考えられ、科学的知見に基づいて、妊産褥婦のメンタルヘルスケアにつなげることを目的に、新たに「健やかな親子関係 3 つのポイント（仮称）」を提案し、介入方法について検討した。

B. 研究方法

1.　メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の整備

①診療ガイドでの整備

日本周産期メンタルヘルス学会と協働し、同学会の「周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド 2017」のクリニカルクエスチョン(CQ)にメンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応についての項目を入れることとした。CQ の Answer の連携システムについては、平成 25～27 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（精神障害分野））「うつ病の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の連携・協働による支援体制（周産期 G-P ネット）構築の推進に関する研究」（研究代表者 立花良之）が行った、東京都世田谷区、長野県須坂市・長野市をモデル地域とした研究成果[1]をもとに作成した。

②研修パッケージの作成・均てん化

メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の均てん化のために、研修パッケージを作成し、全国の母子保健関係者（保健師・助産師・看護師・産科医・小児科医・精神科医・医療ソーシャルワーカーなど）を対象に厚生労働省子どもの心の診療ネットワーク事業で研修会を行うこととした。また研修の内容を書籍化した[1]。

③妊産褥婦のメンタルヘルス対応についての医療・保健・福祉の連携モデルの展開

連携システムを長野県長野市・須坂市・東京都世田谷区をモデル地域として展開し、実行可能性を検証した。

2. 健やかな親子関係のための、妊娠期からの切れ目ない支援についての介入方法の研究

①健やかな親子関係についての検討

平成 28 年度 厚生労働科学研究費補助金健やか次世代育成総合研究事業「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」研究班(研究代表者　山縣然太朗）と本研究班が協働し、健やかな親子関係のポピュレーションアプローチによる介入研究及び啓発活動のための健やかな親子関係のための重要なポイントを策定することとした。まず、健やかな親子関係とはどのようなものかについて母子保健研究者である研究班メンバーがディスカッションを行い、健やかな親子関係に重要なポイントを K-J 法でまとめた。それにより、5 つのポイント「地域とつながっている家族」、「親子のコミュニケーションが良好」、「子どもを傷つけない」、「親子の役割が明確」、「親子で価値観を共有できる」が抽出された。それら 5 つのポイントについて、エビデンス収集のための文献研究を行った（研究協力者齋藤尚大の報告書参照）。5 つのポイントは重複する要素もあったため、さらに、その 5 つのポイントを集約して、3 つのポイント「地域社会と交流の多い親子」、「コミュニケーションが良好な親子」、「子どもの心を大切にする親」に絞った。

それら 3 つのポイントについての質問から構成される「健やかな親子関係心理尺度」を作成し、信頼性・妥当性検証のため、複数の専門学校・大学で実施することを計画し、まず長野県須坂看護専門学校の看護学生を対象に実施した（研究協力者水本深喜の報告書参照）。

②健やかな親子関係のための啓発

①の健やかな親子関係の 3 つのポイントについて、順次啓発を行うこととし、まず最初に、「子どもを傷つけない」のポイントについて、子どもへの体罰・暴言根絶を目指した啓発リーフレットを作成することとした。

C. 研究結果

1.　メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の整備

①診療ガイドでの整備

「周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド 2017」で下記のCQを設定し、Answerを作成した。

Q5. メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する、緊急度／育児・家庭環境／児の安全性確保に留意した医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の仕方は？

推奨

1. 妊産褥婦のメンタルヘルス不調が考えられたときは、まず、緊急の対応を要するか否かを見極める。(I)

2. 緊急性がある場合は、自治体・圏域の精神科救急情報センターに連絡する。あるい

は、圏域保健所の精神保健福祉担当部署・者や市町村自治体の精神保健福祉、母子保健担当部署・者につなげる。(I)
3. 緊急性はないが、精神科専門治療の必要がある場合、精神科受診を勧奨する。その際、圏域保健所の精神保健福祉担当部署・者と連携をはかる。(I)
4. 育児・家庭環境の問題があり、母子保健関係者が介入したほうが良い場合、まず医療機関スタッフが相談にのった上で居住地自治体の母子保健担当部署の保健師等に連絡し、DVがあればそれらに加え女性相談センターへの相談を勧める。(I)
5. 出生した乳児の安全性確保の必要性がある場合、児童相談所・子ども家庭支援センター、または保健師に連絡する。(I)

また、「周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド 2017」を踏まえ、産婦健康診査事業実施内容の策定について、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課と本研究班メンバー（立花・竹田・鈴木・岡野）で話し合い、産婦健康診査事業実施に当たり、留意するべき案を下記のようにまとめ、竹田が日本産科婦人科学会、鈴木が日本産婦人科医会の理事会で了承を得たのち、2017 年 3 月 31 日付で各都道府県・保健所設置市・特別区母子保健主管部（局）に対し厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長通知として施策化された。

＜産婦健康診査事業実施にあたり留意するべき内容の要旨＞（資料 1 参照）
・医療機関で受けた産婦健康診査の結果が自治体に報告されることについて本人の了解を得ることが前提となった。これにより、妊産褥婦やその子どものサポートのための医療・保健の情報共有が推進される
・妊産婦健康診査でエジンバラ産後うつ病質問票（EPDS）が実施されること、EPDS の点数のみならず、精神状態について総合的に評価することが明記された
・支援が必要とされる受診者に対し適切に対応できるよう、あらかじめ実施機関、精神科医療機関及び福祉関係機関との連携体制を構築しておくことが努力義務として明記された。
・妊産婦健康診査実施機関からの報告により支援が必要と判断される場合には、受診者への電話連絡、訪問等により速やかに実情を把握するとともに、保健所や精神保健福祉センター等の関係機関と連携し、支援を行うことが努力義務とされた。

②研修パッケージの作成・均てん化

厚生労働省子どもの心の診療ネットワーク事業で、2016 年 12 月 4 日に国立成育医療研究センター講堂で「母子保健メンタルケア指導者研修会」を開催した。従来子どもの心の診療ネットワーク事業は、子どもの心のケアの研修会を行ってきていたが、今回の研修会は親子の視点で家族全体のケアを考えることを趣旨とし、地域で親子のこころのケアを行う人材育成のための研修プログラムを作成し、研修会を開催した。参加者が母子保健関係者のメンタルケアに関する相談役・アドバイザーとなるほか、地域における他のメンタルケアを推進する母子保健関係者との連携体制の構築に携わってもらうように研修内容を組んだ。
あわせて、
・都道府県・指定都市医師会を単位とした、母子保健関係者を対象とした、メンタルケアの対応力向上を図るための研修の企画立案
・各地域医師会と子育て世代包括支援センターとの連携作りへの協力（地域における「連携」の推進役を期待）
に携わるうえで役立つような内容とした。

③妊産褥婦のメンタルヘルス対応についての医療・保健・福祉の連携モデルの展開

長野県長野市・須坂市をモデル地域として実行可能性を検証した。長野県須坂市では、県立須坂病院の会議室で定期的に地域の保健師・小児科医・産婦人科医・助産師・看護師・医療ソーシャルワーカー・精神科医などの母子保健関係者が集まり、多職種で情報共有しフォローアップする体制を地域の母子保健関係者と整備した。長野市では長野市保健所、長野県精神保健福祉センター、長野県長野市医師会が協働して、周産期のメンタルケアの連携体制を構築した。

2. 健やかな親子関係のための、妊娠期からの切れ目ない支援についての介入方法の研究

①健やかな親子関係についての検討

健やかな親子関係を育むうえで「地域社会と交流の多い親子」、「コミュニケーションが良好な親子」、「子どもの心を大切にする親」は重要であり、これらは成人後のメンタルヘルスにも大きく影響することが明らかになった。(研究協力者齋藤尚大・水本深喜の報告書参照)

②健やかな親子関係のための啓発

子どもへの体罰・暴言根絶のため、脳科学や発達心理学の研究から明らかにされている体罰・暴言の子どもに与える深刻な悪影響を紹介し、親に対し子育ての中で体罰・暴言を用いないようにマインドセットを促すような内容の啓発リーフレットとした。リーフレットの中で親への心理教育的メッセージとして、5つのポイント（Point1:子育てに体罰や暴言を使わない、Point 2: 子どもが親に恐怖を持つと SOS を伝えられない、Point 3: 爆発寸前のイライラをクールダウン、Point 4:親自身が SOS を出そう、Point 5:子どもの気持ちと行動を分けて考え、育ちを応援）を解説し、また、子育てに悩む親の相談先として、最寄りの市長村の子育て相談窓口または児童相談所全国共通ダイヤル「１８９」を明記した。このリーフレットは、2017 年 5 月 15 日付で、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課より都道府県・保健所設置市・特別区の児童福祉・母子保健主管部（局）宛に、「体罰によらない育児を推進するための啓発資材について」として、普及のために通知された。

D. 考察

メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の整備として、日本周産期メンタルヘルス学会の周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド 2017 に CQ と Answer を記載した。今後、この内容を医療・保健・福祉の母子保健関係者に周知して現場で広く利用されるようになることが望まれる。研修会などを通して、均てん化していく必要があると考えられる。

研修パッケージの均てん化のために本研究班が子どもの心の診療ネットワーク事業で行った「母子保健メンタルケア指導者研修」のような親子の心のケアについての研修は、子どもの心のケアを親子の視点でとらえている。これまで、厚生労働省子どもの心の診療ネットワーク事業は子どもの心のケアのみを対象にしていたが、子どもの心のケアには子どものみならず家族全体の心理的な力動をとらえケアを考えるのが有効であることは臨床的にもコンセンサスが得られている。このような研修会は、「妊娠期からの切れ目ない支援」において、メンタルケア領域で関係職種をつなぎ、地域の母子保健のメンタルケアをより包括的にするのに有益であると考えられる。この研修会の参加者の地域連携スキルについての効果は、厚生労働科学研究費補助金成育疾

患克服等次世代育成基盤研究事業「妊婦健康診査および妊娠届を活用したハイリスク妊産婦の把握と効果的な保健指導のあり方に関する研究」の分担研究として、平成 29 年度に検証する。尚、同研修会は平成 29 年度以後も、継続して厚生労働省子どもの心の診療ネットワーク事業で毎年実施していく予定である。

CQ の多職種地域連携システムを世田谷区の母子保健関係者に展開したが、毎月 1 回区役所で行う「顔の見える連携」の場の症例検討会に、地域の子育て支援機関関係者が参加するようになった。これまでは、母子保健の多職種連携といっても医療・保健・福祉だけのことが多かったが、子育て支援機関関係者も母親のメンタルケアのノウハウを持っており、また、医療・保健・福祉のネットワークに子育て支援機関関係者も参加することは重要と考えられる。今後、母親のメンタルヘルスのガイドラインや政策などでも、子育て支援機関を含めたものにしていくことで、さらに、地域の多職種連携が深まると考えられる。

平成 29 年度より始まった産婦健康診査事業については、健康診査を受ける全産婦について医療機関と自治体と情報共有し、連携して対応することが施策化された。一方で、現状では妊婦健康診査事業については、特定妊婦についての医療機関と保健機関の情報共有が努力義務になっているものの、医療機関と保健機関で全ての妊婦の情報共有をすることについては前提となっていない。今後医療機関と保健機関で全妊婦について個人情報保護に留意しつつ、情報共有をした上で妊娠期からの切れ目のない支援を行っていく施策についての検討が必要であると考えられる。

本研究班で明らかになった、健やかな親子関係を構築する上で重要な 3 つのポイント「地域社会と交流の多い親子」、「コミュニケーションが良好な親子」、「子どもの心を大切にする親」の要素が、健やかな親子関係に非常に重要であり、これらを推進するような母子保健施策が有益であると考えられた。作成した心理尺度の信頼性・妥当性を偏りのない大きなサンプルで検証したうえで、一般健常群と臨床群の比較などについて、検討を行っていく予定である。また、3 つのポイントについて、ポピュレーションアプローチとして啓発活動を行い、その効果を検証することについてのさらなる研究が必要と考えられる。

E. 結論

メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の整備として、日本周産期メンタルヘルス学会の周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド 2017 に CQ を設定し、その Answer を作成した。連携の内容については、母子保健関係者が共通認識を持ち対応していく必要があるため、今後、連携モデルについて研修会などを通して母子保健関係者に普及させていく必要があると考えられる。

これまでは、周産期から育児期のメンタルケア領域の研修は、子どものメンタルケア、妊産婦のメンタルケアという風にそれぞれ独立していたが、本研究班が行ったような親子の視点でとらえたメンタルケアの研修は、今後「妊娠期からの切れ目ない支援」の充実に必要であると考えられる。

メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する地域の多職種連携の中に、今後子育て支援機関を含めたものにしていくことで、より良い地域の支援体制につながると考えられる。健康診査を受ける全産婦について医療機関と自治体と情報共有し、連携して対応することが施策化されたが、今後、全妊婦について情報共有をした上で妊娠期からの切れ目のない支援を行っていく施策についての検討が必要であると考えられる。本研究班では、健やかな親子関係を構築するう

えで、「地域とつながっている家族」、「親子のコミュニケーションが良好」、「子どもを傷つけない」、「親子の役割が明確」、「親子で価値観を共有できる」が重要であることが明らかになったが、今後、啓発活動を行い、その効果検証についてのさらなる研究が必要と考えられる。

F. 引用文献・出典

1.　　立花良之. 母親のメンタルヘルスサポートハンドブック　気づいて・つないで・支える多職種地域連携. 医歯薬出版株式会社. 2016.

G. 研究発表

1. 論文発表

英文

1. Tsunehiko Kurokami, Yoshiyuki Tachibana, Motoko Kogure, Makiko Okuyama. Pitfalls in the Recognition and Diagnosis of Munchausen Syndrome by Proxy. Clinics in Mother and Child Health. 2016.

和文

1. 立花良之、小泉典章「妊娠期からの切れ目ない連携支援体制づくり」、精神科治療学（32 巻 6 号、印刷中）
2. 小西晶子、立花良之「5. 睡眠薬」、「Rp.+2017 年夏号　妊娠期のマイナートラブル」、南山堂（印刷中）
3. 小西晶子、立花良之「周産期のうつ病」、月刊「精神科」、科学評論社（印刷中）
4. 立花良之、「46. 意思疎通困難」、周産期医学 47 巻増刊号、東京医学社（印刷中）
5. 小西晶子、立花良之「45. 不安症状・うつ症状」、周産期医学 47 巻特集号、東京医学社（印刷中）
6. 立花良之、小泉典章、中板育美「CQ5　メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する、緊急度／育児・家庭環境／児の安全性確保に留意した医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の仕方は？」、日本周産期メンタルヘルス学会（編）、周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド 2017（印刷中）
7. 立花良之、小泉典章、中板育美「CQ6　メンタルヘルス不調で支援を要する妊産褥婦についての、医療・保健・福祉の情報共有及び同意取得・虐待や養育不全の場合の連絡の仕方は？」、日本周産期メンタルヘルス学会（編）、周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド 2017（印刷中）
8. 立花良之、小泉典章、樽井寛美、赤沼智香子、鈴木あゆ子、石井栄三郎、鹿田加奈「メンタルヘルス不調の母親とその子どもの支援のための、妊娠期からはじまる医療・保健・福祉の地域連携モデルづくりについて」、子ども虐待とネグレクト、362-366、vol.18. No.3、2016
9. 小泉典章、立花良之「精神保健と母子保健の協働による周産期メンタルヘルスへの支援」子ども虐待とネグレクト、231-235、vol.18.No.2、2016
10. 立花良之、小泉典章 「母子保健活動と周産期・乳幼児期の精神保健」精神科治療学、97-103、vol.31.No.2、2016

書籍

1. 立花良之. 母親のメンタルヘルスサポートハンドブック　気づいて・つないで・支える多職種地域連携. *医歯薬出版株式会社* 2016.

2.学会発表

学会発表

1. 立花良之「妊娠中や産後女性のこころの問題について」、第 6 回内科疾患と妊娠フォーラム、東京、2016 年 9 月 24 日
2. 立花良之、「妊娠期からの切れ目ない子育て支援を支えあえる地域づくりのために　～地域における子育て支援関係者と医療・保健・福祉との連携について」、全国

子育てひろば実践交流セミナー in ながの、長野市、2016 年 10 月 19 日
3、立花良之、「メンタルヘルス不調の母親に対する妊娠期からの切れ目のない支援のための地域における医療・保健・福祉の連携づくりについて」、第 13 回 日本周産期メンタルヘルス学会 学術集会、東京、2016 年 11 月 19 日
4. 立花良之、「妊娠期・産後・育児期に起こりやすい母親のメンタルヘルス不調の見立てと対応のポイント」、厚生労働省子どもの心の診療ネットワーク事業主催
母子保健メンタルケア指導者研修会 、東京、2016年12月4日
5. 立花良之、「地域での母子保健メンタルケア研修会開催にあたってのパッケージ例」、厚生労働省子どもの心の診療ネットワーク事業主催 母子保健メンタルケア指導者研修会 、東京、2016年12月4日
6. 立花良之、「妊娠期からの切れ目ない支援」のための地域母子保健計画策定とＰＤＣＡサイクルの考え方」、厚生労働省子どもの心の診療ネットワーク事業主催母子保健メンタルケア指導者研修会 、東京、2016年12月4日
7. 立花良之、「妊娠中・産後におこりやすいこころの不調への対応のポイント」、松戸市母子保健研修会、松戸市、2016年12月16日
8. 立花良之、明石眞弓、松田妙子、加藤明子、三島典子、佐藤智子、漆畑栄子、大久保美保、吉岡淑隆、「医療・地域・行政の連携で子ども・子育て家庭を支える～顔の見える地域づくり～」、第2回せたがや子ども子育て学会、東京都世田谷区、2017年2月4日

講演
1. 立花良之、「母親のメンタルヘルス気づいて・つないで・支える妊娠期からの多職種地域連携」、岡山県子どもの心診療ネットワーク事業講演会、岡山市、2017 年 3 月 17 日

雇児母発０３３１第１号
平成２９年３月３１日

各 都道府県 / 保健所設置市 / 特別区 母子保健主管部（局）　御中

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長

産婦健康診査事業の実施に当たっての留意事項について

平成１７年８月２３日雇児発第 0823001 号厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「母子保健医療対策総合支援事業の実施について」に基づく産婦健康診査事業の実施に当たり、産後うつの予防や新生児への虐待予防等を図るために行う精神状態の把握に関しては、産婦健康診査を実施する病院、診療所及び助産所（以下「実施機関」という。）並びに市町村（特別区を含む。以下同じ。）が留意すべき事項は下記のとおりであるので、各自治体におかれては遺漏のないよう配慮されたい。

また、都道府県におかれては、実施機関及び管内市町村に対し、本事業が適切に実施されるよう、下記内容について周知徹底をお願いする。

記

１　実施機関

（１）産婦健康診査を受診する産婦（以下「受診者」という。）に対し、産婦健康診査の結果（以下「健診結果」という。）が市町村に報告されることを説明すること。

（２）産婦健康診査のうち、精神状態の把握については、エジンバラ産後うつ病質問票の点数だけではなく、問診（精神疾患の既往歴、服薬歴等）、診察（表情、言動等）なども併せて総合的に評価すること。

（３）健診結果は受診者本人に直接伝えること。

（４）支援が必要と判断される受診者に対しては、適宜、次に掲げる対応を行うこと。

①　受診者のセルフケアに関する助言・指導

②　子育て世代包括支援センター等、市町村の相談窓口等に関する情報提供

③　実施機関における経過観察

④　精神科に関する情報提供（可能であれば精神科医療機関を紹介）

⑤　その他、受診者を支援するために必要な助言・情報提供等

（５）健診結果を母子健康手帳に記入する場合には、個人情報保護の観点から受診者本人の了解が必要であることに留意する必要があること。

（６）市町村に対しては、（２）による評価及び（４）による対応内容について、速やかに報告すること。

２　市町村

（１）産婦健康診査事業の実施主体である市町村において健診結果が把握・管理されることをあらかじめ受診者に周知すること。

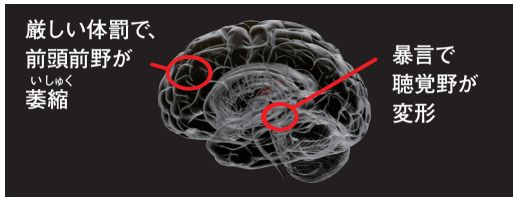
（２）支援が必要とされる受診者に対し適切に対応できるよう、あらかじめ実施機関、精神科医療機関及び福祉関係機関との連携体制を構築しておくこと。

（３）実施機関からの報告により支援が必要と判断される場合には、受診者への電話連絡、訪問等により速やかに実情を把握するとともに、関係機関と連携し支援を行うこと。

体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします。

脳画像の研究により、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生じていることが報告されています。親は「愛の鞭」のつもりだったとしても、子どもには目に見えない大きなダメージを与えているかも知れないのです。

●子ども時代の辛い体験により傷つく脳



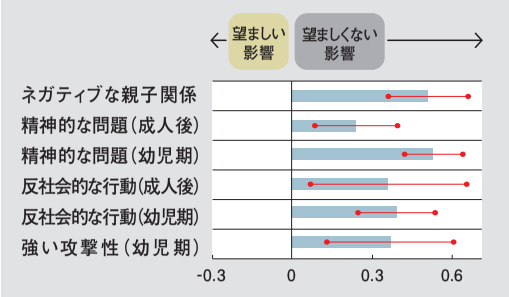
提供：福井大学 友田明美教授

- 厳しい体罰により、前頭前野（社会生活に極めて重要な脳部位）の容積が19.1%減少
  (Tomoda A et al., Neuroimage, 2009)
- 言葉の暴力により、聴覚野（声や音を知覚する脳部位）が変形
  (Tomoda A et al., Neuroimage, 2011)

体罰は百害あって一利なし。子どもに望ましい影響などもたらしません。

親による体罰を受けた子どもと、受けていない子どもの違いについて、約16万人分の子どものデータに基づく分析が行われています。その結果、親による体罰を受けた子どもは、次のグラフのとおり「望ましくない影響」が大きいということが報告されています。

●「親による体罰」の影響



出典のデータを用いてグラフを作成

- 親子関係の悪化
- 精神的な問題の発生
- 反社会的な行動の増加
- 攻撃性の増加

(Gershoff ET, Grogan-Kaylor A, J Fam Psychol. 2016)

既に子どもへの体罰等を法的に全面禁止している国は世界50か国以上！

国連「子どもの権利条約」では、締約国に体罰・暴言などの子どもを傷つける行為の撤廃を求めています。

子育ての悩みがあるときは、最寄りの市町村の子育て相談窓口
または児童相談所全国共通ダイヤル「189」にご連絡ください。

平成28年度 厚生労働科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業
「妊産褥婦健康診査の評価および自治体との連携の在り方に関する研究」（研究代表者　立花良之）
「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」（研究代表者　山縣然太朗）
作成協力：認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク理事　高祖常子／福井大学子どものこころの発達研究センター教授　友田明美
JST/RISTEX「公私空間」研究開発領域「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」プロジェクト

子どもを健（すこ）やかに育むために

～愛の鞭（ムチ）ゼロ作戦～

子育てをしていると、
子どもが言うことを聞いてくれなくて、
イライラすることもあります。
つい、叩いたり怒鳴ったりしたくなることもありますよね。
一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、
恐怖により子どもをコントロールしているだけで、
なぜ叱られたのか子どもが理解できていないこともあります。
最初は「愛の鞭」のつもりでも、いつの間にか
「虐待」へとエスカレートしてしまうこともあります。
体罰や暴言による「愛の鞭」は捨ててしまいましょう。
そして、子どもの気持ちに寄り添いながら、
みんなで前向きに育んでいきましょう。

愛の鞭をやめて、子どもを健やかに育みましょう。

子育てにおいて、しつけと称して、叩いたり怒鳴ったりすることは、
子どもの成長の助けにならないばかりか、悪影響を及ぼしてしまう可能性があります。
以下のポイントを心がけながら、子どもに向き合いましょう。

POINT 1 子育てに体罰や暴言を使わない

一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、叩くことによって得られた子どもの姿は、叩かれた恐怖によって行動した姿。自分で考え行動した姿ではありません。

「愛の鞭である」と親が思っても、子どもにとって大人から叩かれることはとても怖いことです。ちょっと叩かれただけ、怒鳴られただけでも、心に大きなダメージを受けることもあります。

子どもだからといって、暴力や暴言が許されるわけではありません。それに体罰や暴言は「虐待」へとエスカレートする可能性もあります。「叩かない怒鳴らない」と心に決めましょう。

POINT 2 子どもが親に恐怖を持つとSOSを伝えられない

親に恐怖を持った子どもはどのような行動を起こすでしょうか。親に気に入られるように、親の顔色を見て行動するようになります。

また、恐怖を持つ親に対しては、子どもが心配事を打ち明けられなくなります。心配事を相談できないと、いじめや非行など、より大きな問題に発展してしまう可能性もあります。

POINT 3 爆発寸前のイライラをクールダウン

子どもが言うことを聞いてくれないときに、イライラすることは誰でもあること。でも、疲れていたりして、もともと抱えているストレス度が大きいと、子どものちょっとした行動（おもちゃの取り合い、すぐに動かないなど）をきっかけに、イライラが爆発してしまうことがあります。

イライラが爆発する前に、クールダウンするための、自分なりの方法を見つけておきましょう。

イライラしたときはクールダウン
深呼吸する、数を数える、窓を開けて風に当たるなど

POINT 4 親自身がSOSを出そう

育児の負担を一人で抱え込まずに、家族に分担してもらったり、自治体やNPO、企業などのさまざまな支援サービス（ファミリーサポート、家事代行サービス、一時預かりなど）の利用も検討しましょう。子育ての苦労について気軽に相談できる友だちもできるといいですね。

POINT 5 子どもの気持ちと行動を分けて考え、育ちを応援

子どもに「イヤだ！」と言われたとき、親自身が戸惑うこともあるでしょう。でも、2、3歳の子どもの「イヤ」は、自我の芽生えであり、成長の証しでもあります。「どうしたらいいかな？」と、子どもの考えを引き出し、必要に応じて助け船を出しながら、子どもの言い分を気長に聴きましょう。

「わがままな子になっては困る」という想いから、親は指示的に対応してしまうこともありますが、子どもの成長過程で必ず通る道だと大らかに構えて、子どもの意思を後押ししていきましょう。

事　務　連　絡
平成２９年５月１５日

各 (都道府県 / 保健所設置市 / 特別区) 児童福祉・母子保健主管部（局）御中

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課

体罰によらない育児を推進するための啓発資材について

母子保健行政の推進につきましては、かねてより格段の御配意を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、このたび、平成２８年度 厚生労働科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業（※１）により、体罰によらない育児を推進するための啓発資材「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～」（以下「本啓発資材」という。）が作成されました。本啓発資材は、「児童福祉法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議」（平成２８年５月２６日、参議院厚生労働委員会）による指摘（※２）を踏まえ、「子どものしつけには体罰が必要」という誤った認識・風潮を社会から一掃することを目的として作成されたものです。

つきましては、関係機関・団体の協力も得て、妊娠届出時の面談や、妊婦健康診査、産婦健康診査、乳幼児健康診査、両親学級、育児相談等の様々な機会を捉えて本啓発資材を活用していただき、児童虐待のリスクの有無にかかわらず、広く国民に対する意識啓発に努めていただくようお願いいたします。また、各都道府県におかれましては、貴管内市町村及び関係機関・団体へ本啓発資材を周知していただくようお願いいたします。

なお、本啓発資材は、「健やか親子２１（第２次）」のホームページ（http://sukoyaka21.jp/poster）にPDF版とWORD版の２種類を掲載しており、WORD版については自治体名等を入力できるようになっています。両面印刷した上で、半分に折り、リーフレットとして御利用ください。

※１　「妊産褥婦健康診査の評価および自治体との連携の在り方に関する研究」（研究代表者　立花良之）
「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」（研究代表者　山縣然太朗）

※２　「児童虐待を防止し子どもの健全な育成を図るため、子どもに対する有形力の行使は、子どもの精神あるいは発達に様々な悪影響を及ぼし得るため基本的には不適切であることを周知徹底するなど、体罰によらない子育てを啓発すること。」

平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）
研究協力報告書

健やかな親子関係を育むのに重要なポイントについての文献研究

研究協力者　齋藤尚大　（横浜カメリアホスピタル）

研究要旨

本研究では、健やかな親子関係を育むのに重要なポイントについての文献研究を行うことを目的とした。平成 28 年度 厚生労働科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」研究班（研究代表者　山縣然太朗）と本研究班が協働し、健やかな親子関係のための重要なポイントを K-J 法でまとめ、5 つのポイント「地域とつながっている家族」、「親子のコミュニケーションが良好」、「子どもを傷つけない」、「親子の役割が明確」、「親子で価値観を共有できる」が抽出された。それら 5 つのポイントについて、エビデンス収集のための文献研究を行った。5 つのポイントについて、それぞれ子の成育に対する増進効果、問題行動の抑止効果のエビデンスがあることが示された。しかし、エフェクトサイズを考慮すると、貧困問題や健やかな親子関係のためには、義父義母家庭、異父異母兄弟姉妹のいる家庭、養子縁組家庭、片親家庭への支援を行うことも重要と考えられた。

研究協力者
山縣然太朗（山梨大学大学院総合研究部
医学域基礎医学系
社会医学講座）
松浦賢長　（福岡県立大学看護学部
ヘルスプロモーション
看護学系）
山崎嘉久　（あいち小児保健医療総合センター）
尾島俊之　（浜松医科大学医学部
健康社会医学講座）
市川香織　（文京学院大学
保健医療技術学部看護学科）
篠原亮次　（健康科学大学健康科学部）
岩佐景一郎（山梨県福祉保健部
健康増進課）
秋山有佳　（山梨大学大学院総合研究部
医学域基礎医学系社会医学講座）
久貝太麻衣（国立成育医療研究センター
教育研修部）
水本深喜　（国立成育医療研究センター
こころの診療部）
立花良之　（国立成育医療研究センター
こころの診療部
乳幼児メンタルヘルス診療科）

A.研究目的

すべての子どもが健やかに成長していくう

えで、健やかな親子関係は極めて重要である。健やかな親子関係を育むうえでどのようなことが重要かを明らかにすることは、母子保健の啓発にとって有益である。本研究では、健やかな親子関係を育むのに重要なポイントについての文献研究を行うことを目的とした。

B.研究方法

平成 28 年度 厚生労働科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」研究班（研究代表者　山縣然太朗）と本研究班が協働し、健やかな親子関係のための重要なポイントを策定することとした。まず、健やかな親子関係とはどのようなものかについて母子保健研究者である研究班メンバーがディスカッションを行い、健やかな親子関係に重要なポイントを K-J 法でまとめた。それにより、5 つのポイント「地域とつながっている家族」、「親子のコミュニケーションが良好」、「子どもを傷つけない」、「親子の役割が明確」、「親子で価値観を共有できる」が抽出された。それら 5 つのポイントについて、エビデンス収集のための文献研究を行った。

C.研究結果

1 地域とのつながり

1-1 機能的（例：社会的サポート）・構造的（例：結婚、社会活動への参加）地域関係

・年齢・性別・健康状態・死因・観察年数に関わらず、強い社会関係は生存率を 50%増加させる [5]。

1-2 集団的効力感（collective efficacy）

・適度な近隣関係は青少年の犯罪発生・精神疾患への罹患を抑制する [8]。

2 親子のコミュニケーション・安心・信頼

2-1 健康的家庭機能（強い連帯、オープンなコミュニケーション、相互性）

・健康的家庭機能は青年の逸脱行動の程度と負の相関関係を持つ（しかし、継時的には有意差は認められなかった。家庭機能だけでなく、学校生活や友人関係などの影響も考慮する必要がある）[1]。

2-2 青少年の性行動に関する親子の会話（への介入）

・エイズや性感染症への罹患危険性が高いアフリカ系/ヒスパニック系において、親子の（性に関する）コミュニケーションへの介入は、青少年の性リスクの低減に有用である。15 の介入研究のうち 87%（13）研究で、少なくとも一つの性健康アウトカムの改善を認めた [11]。

2-3 食生活に対する親のサポートと近隣環境（若者の肥満、メタボリックシンドローム・2 型糖尿病の予防）

・肥満・メタボリックシンドロームのリスクのある若者の健康行動に対して、特に親からの行動介入および近隣の社会的一体性は良い影響を与える [4]。

3 子供を傷つけない

3-1 虐待防止（虐待による子供の問題行動・犯罪の増加）

・虐待・ネグレクトを経験した子供は、成人期に喫煙、アルコール依存、薬物乱用およびハイリスクな性行為を行うリスクが高まる [7]。

・米国司法研究所によれば、子供時代に虐待やネグレクトを受けると少年期の検挙率が59%増加する[12]。

4 親子の役割が明確

4-1 親子の役割逆転

・幼少期の無秩序な愛着は、幼児期の役割逆転を予測する[6]。

・役割逆転は、児の情緒的・行動的自己制御の問題を予測する。階層的重回帰分析で、父親と幼児の役割逆転は外在化症状および注意の問題を予測し、母親と幼児の役割逆転は社会問題を予測した[6]。

・父親の育児参加は、男児の行動問題・女児の心理問題の頻度を減少させる。また、それは、社会経済的地位の低い家庭において、子の認知機能発達を促進し、犯罪率や経済的不利益を減少させる[9]。

・HOME という家庭環境の質を評価する尺度を検討したところ、責任感や家族の接触（family companionship）は家庭の社会経済的地位（SES）と子供の抑制制御の関係を部分的に媒介し、enrichment と家族の接触は SES と子供のワーキングメモリーの関係を媒介した（低い SES が子供の認知機能に与える影響を緩和）[10]。

5 親子で価値観を共有できる

5-1 遺伝子や環境の影響が大きい行動に対する親の介入の効果

・双生児の継時的研究によると、子供の喫煙リスクに対しては親の監視のエフェクトサイズはちいさく（2%）、遺伝子（21%）や環境(67%)の影響が大きい。しかし、親の監視は、遺伝子の影響を 1/4 に和らげ、環境の影響を 4 倍に増加させる[2]。

6 その他

6-1 子供への貧困の影響

・貧困家庭で生育した青年は、逸脱行動のリスクが高い[1]。

6-2 生物学的両親の離婚・死別の子供への影響

・生物学的両親が揃っていない家庭の青年は、生物学的両親が揃っている家庭の青年よりも、継時的に逸脱行動が多い[1]。

6-3 両親の結婚生活の質と親子関係

・双子研究によると、遺伝子に影響された親の性格が、結婚生活の質や親子関係の特徴を説明する（それぞれ 33%, 42%）[3]。

D.考察

本研究の結果、5 つの取り組み目標について、子の成育や親子関係に影響を与えるエビデンスが抽出された。具体的には、1「地域とのつながり」については、地域とのつながりが生存率の増加および犯罪発生・精神疾患への罹患の低減をもたらし、2「親子のコミュニケーション・安心・信頼」については、家族内のコミュニケーションが青少年の逸脱行動のリスク低下や性行動のリスク低下につながり、3「子供を傷つけない」については、幼少期の虐待が青年期の物質乱用やハイリスクな性行動、また犯罪の増加につながり、4「親子の役割が明確」については、親子の役割逆転が子の情緒的・行動的問題と関連し、逆に親の役割の明確化は子の認知機能に正の影響を与えることがわかり、また 5「親子で価値観を共有できる」については、遺伝

子や環境の影響が大きい行動でも、親の介入で子の行動を変容しうることがわかった。このように、健やかな親子関係を得るための取り組み目標は、取り組みを行った場合、子の成育に良好な影響を与えるか、あるいは健康を害する行為を抑止する効果が期待される。

一方、これらの介入効果は、少なくとも本論で取り上げた研究においては、効果のエフェクトサイズが小さいものも認められる。5-1 や 6「その他」で示したように、貧困や遺伝学的な家族関係の方が、エフェクトサイズが大きい場合もあり、親子関係の取り組みをより生かすためには、貧困問題や健やかな親子関係のためには、義父義母家庭・異父異母兄弟姉妹のいる家庭・養子縁組家庭・片親家庭への支援も並行して行うことが重要と考えられる。

E.結論

5 つの取り組み目標について、それぞれ子の成育に対する増進効果、問題行動の抑止効果のエビデンスがあることが示された。しかし、エフェクトサイズを考慮すると、貧困問題や健やかな親子関係のためには、義父義母家庭、異父異母兄弟姉妹のいる家庭、養子縁組家庭、片親家庭への支援を行うことも重要と考えられる。

引用文献・出典

1) Daniel TL et al. What Predicts Adolescent Delinquent Behavior in Hong Kong? A Longitudinal Study of Personal and Family Factors. Social Indicators Research, December 2016, Volume 129, Issue 3, pp 1291–1318

2) Dick DM et al. Parental monitoring moderates the importance of genetic and environmental influences on adolescent smoking. J Abnorm Psychol, 2007 vol. 116(1) pp. 213-8

3) Ganiban JM et al. Understanding the role of personality in explaining associations between marital quality and parenting. J Fam Psychol, 2009 vol. 23(5) pp. 646-60

4) Hannah G et al. A Review of Family and Environmental Correlates of Health Behaviors in High-Risk Youth. Obesity (2012) 20, 1142–1157

5) Holt-Lunstad J et al. Social Relationships and Mortality Risk: A Meta-analytic Review.
PLoS Med 7(7): e1000316

6) Macfie J et al. Independent influences on mother-toddler role reversal: Infant-mother attachment disorganization and role reversal in mother's childhood. Attachment and Human Development. 2008;10:29–39

7) Runyan D et al. Child abuse and neglect by parents and other caregivers. In: Krug E, Dahlberg LL, Mercy JA, Zwi AB, Lozano R, editors. World report on violence and health. Geneva,Switzerland: World Health Organization; 2002. p. 59–86

8)Sampson RJ et al. Assessing

"Neighborhood Effects": Social Processes and New Directions in Research. Annual Review of Sociology, Vol. 28 (2002), pp. 443-478
9) Sarkadi A et al. Fathers' involvement and children's developmental outcomes: a systematic review of longitudinal studies. Acta Pædiatrica 2008 97, pp. 153–158
10) Sarsour K et al. Family Socioeconomic Status and Child Executive Functions: The Roles of Language, Home Environment, and Single Parenthood. Journal of the International Neuropsychological Society (2011), 17, 120–132
11)Sutton MY et al. Impact of parent-child communication interventions on sex behaviors and cognitive outcomes for black/African-American and Hispanic/Latino youth: a systematic review, 1988-2012. J Adolesc Health. 2014 Apr;54(4):369-84
12) Widom CS et al. An update on the "cycle of violence." Washington (DC): National Institute of Justice; 2001.

F.研究発表

なし

G.研究発表

1.論文発表

英文

なし

和文

なし

学会発表

なし

H.知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）
分担研究報告書

子どもの頃の家族関係が青年後期・成人期のメンタルヘルスに与える影響

研究協力者　水本深喜　（国立成育医療研究センターこころの診療部）

研究要旨　本研究は，子どもを健やかに育てることができる健やかな家族とはどのような家族なのか，そして家族での被養育体験が，子どもの成長後にどのような影響をもたらすのかを明らかにすることを目的とした。

【分析Ⅰ】尺度の作成　「子どもを健やかに育てる家族尺度」を作成し（因子分析，最尤法プロマックス回転），下位尺度として，「地域に開かれた家族」「子どもを支える家族」「子どもを傷つけない家族」が得られた。次いで，尺度の信頼性（α係数，再検査信頼性）を実証した。本尺度の回答者は，3～6 歳の幼児期，児童期の「子どもの頃」を回顧して回答していた。

【分析Ⅱ】妥当性の検証　FACESⅢ，ソーシャルキャピタル，否定的・肯定的養育との相関関係より，本尺度の構成概念妥当性を実証した。

【分析Ⅲ】子どもの頃の家族関係が青年・成人のメンタルヘルスに与える影響　「地域に開かれた家族」→「子どもを支える家族」→「子どもを傷つけない家族」→「子の成長後のメンタルヘルス」という階層構造を持つ「子どもを健やかに育てる家族」モデルを共分散構造分析で検証した。成長後のメンタルヘルス変数としては，PHQ，アタッチメント，ARS（全問題，内向問題（不安抑うつ，引きこもり，身体愁訴），外向問題（攻撃的行動，規則違反行動，侵入性），思考の問題，注意の問題）を用いた。

・「地域に開かれた家族」：家族が地域とのつながりを持つことは，親が子どもを支える家族を形成することを促し，子どもを支えることができる家族の有り様を媒介して子どもを傷つけない子育てを促し，成長後の子のメンタルヘルスを高めると考えられた。メンタルヘルスへの直接的影響としては，引きこもりに負の影響（有意傾向）がみられた。

・「子どもを支える家族」：子どもを受容し，コミュニケーションを取って親役割を果たすことができる子どもを支える家族であることは，青年後期・成人となった子のメンタルヘルスを多方面に渡り支えていた。抑うつや外在化・内在化問題への影響のみでなく，親密性回避への影響がやや強く，子どもの頃家族に支えられていたという認識を持つことは，自分が他者から愛されるに足る人間であるという自信にも繋がると考えられた。

・「子どもを傷つけない家族」：子どもを身体的・精神的に傷つけない家族であることの青年後期・成人となった子のメンタルヘルスへの影響は，身体愁訴や外在化問題に見られた。被虐待体験は，子どもの逸脱行動を高めるという知見と合致する。

研究協力者
山縣然太朗　（山梨大学大学院総合研究部
医学域基礎医学系
社会医学講座）
松浦賢長　（福岡県立大学看護学部 ヘルスプロモーション看護学系）
山崎嘉久　（あいち小児保健医療総合センター）

尾島俊之　（浜松医科大学医学部
健康社会医学講座）
市川香織　（文京学院大学
保健医療技術学部看護学科）
篠原亮次　（健康科学大学健康科学部）
岩佐景一郎（山梨県福祉保健部
健康増進課）
秋山有佳　（山梨大学大学院総合研究部
医学域基礎医学系
社会医学講座）
傳田純子　（長野県須坂看護専門学校）
小泉典章　（長野県精神保健福祉センター）
中澤文子　（長野県健康福祉部
保健・疾病対策課
母子・歯科保健係）
立花良之　（国立成育医療研究センター
こころの診療部
乳幼児メンタルヘルス診療科）

A. 研究目的

本研究では，平成 27 年度に発表された「健やか親子 21（第 2 次）」に基づいた母子保健行政施策に生かすため，子どもを健やかに育てることができる健やかな家族とはどのような家族なのか，そして家族での被養育体験が，子どもの成長後にどのような影響をもたらすのかを明らかにする。子どもを健やかに育てるための指針および家族の有り様が子どもの精神的健康に与える影響を明確にすることは，親の子育てや，地域による子育て支援への指針に寄与すると考えられる。

子どもを健やかに育てる家族とは，どのような家族なのであろうか。

まず,子どもを健やかに育てるためには，家族自体が健やかである必要があろう。家族システム論では，家族システムの上位システムであるコミュニティとの間で情報や物資の授受がなされるシステムの開放性が高い家族は健康度が高いと捉えられる。こうした家族の開放性については，社会学では，ソーシャルキャピタルという概念から論じられ，地域社会との信頼関係をもって居心地の良さを感じ，地域とよく交流することは，その家族の健康に繋がるとされている[1]。こうしたことから，健康な家族の基盤として，地域との繋がりを取り上げる必要があろう。

次に，家族内においては，子どもの頃に温かく育てられたと認識していると，成人前期のレジリエンス，学業成績は良好で，対人関係の問題は少ないが，子どもの頃に親が拒否的であったり過度に支配的であったと認識している場合には，成人前期の対人関係の問題や臨床的問題の多さに繋がると指摘される[2]。また，母子役割逆転は無秩序型アタッチメントと関連すること[3]，親の受容性と統制度が高いと子が認識していると 18 歳の子の心理社会的発達が良好であることも指摘される[4]。こうしたことから，子どもを受容し，親が親役割を果たすことで子どもを支えることができる家族であることは，子どもを健やかに育てる家族として重要な要素であると言える。

一方，子どもの健やかな発達を阻害することが指摘される養育として,虐待や体罰,子どもに対する暴言など，子どもを身体的・精神的に傷つける養育を取り上げる必要があろう。しつけと称して子どもを傷つけることも，子どもの健全な発達を阻害する。親の体罰は，子どもの道徳内化の水準の低下，攻撃性の増大，非行・反社会的行動の増大，親子関係の悪化，メンタルヘルスの低下につながること[5]，厳しいしつけや虐待を受けた子どもは，18 歳の非行，物質乱用，精神疾患，暴力被害者になる率が高いことが示されている[6]。こうしたことから，身体的・精神的に子どもを傷つけないことも，子どもを健やかに育てる家族の重要な一側面と言えよう。

本研究では，これらの３つの要因は，階層的構造を持つと想定する。すなわち，地

域に開かれている家族の有り様は，子どもを支えていくことができる家族を育くみ，子どもを傷つけない家族であることを支え，子どもを支える家族は，子どもを傷つけない家族であることを支えるであろう。そして，これらの家族の有り様は，媒介的および直接的に成長後の子どものメンタルヘルスを高めると予測する。こうしたことから，本研究では，「子どもを健やかに育てる家族モデル」（Figure 1）を想定する。

これらより，本研究では，「子どもを支える家族」，「子どもを傷つけない家族」，「地域に開かれた家族」という 3 つの側面から家族関係を捉える尺度を作成し（分析Ⅰ），その妥当性を検証する（分析Ⅱ）。そして，これら 3 つの側面の階層的関連を確認した上で，子どもの頃に体験した家族関係が，高等学校を卒業し，家族との関係も自律的なものに移行しつつある時期以降の，青年期後期から成人期にある「子」の行動やメンタルヘルスにどのような影響を与えているのかを明らかにする（分析Ⅲ）。

分析Ⅰ　「子どもを健やかに育てる家族尺度」の作成

分析Ⅰでは，「子どもを健やかに育てる家族尺度」の尺度項目と因子を確定し，尺度の信頼性を検証する。

信頼性は，1 週間の間を置いた再検査法および α 係数の算出により実証する。

分析Ⅱ「子どもを健やかに育てる家族尺度」妥当性検証

分析Ⅱでは，分析Ⅰで作成された「子どもを健やかに育てる家族尺度」の下位尺度である「子どもを支える家族」「子どもを傷つけない家族」「地域に開かれた家族」の構成概念妥当性を検討する。構成概念妥当性の検討に当たっては，変数として「家族機能」，「ソーシャルキャピタル」，「養育態度」を用いる。

家族の状態を測定する測度として，米国で最も注目されているのが，円環モデルに基づいて家族機能を評価する FACESⅢ[7]である[8]。円環モデルでは，家族を「凝集性」「適応性」「コミュニケーション」の 3 つの次元から捉える。「凝集性」は，家族成員がお互いに持つ情緒的なつながりであり，「適応性」は，状況的危機や発達的危機に対して，家族システムの勢力構造や役割関係などを変化させる能力である。「コミュニケーション」は，「凝集性」「適応性」の両次元を促進させる働きを持つ。FACESⅢでは，「凝集性」「適応性」の両次元が中程度のバランス群を家族機能が良く働く健康な家族としており，これらの変数と家族健康度は，カーブリニアな関係にあると想定している。しかし，「凝集性」と家族機能は，凝集性が高い程家族機能は良好であるというリニアな関係が数々の研究で指摘され[9-11]，我が国の研究においても同様の結果が見られている[12]。邦訳 FACESⅢ[12]の尺度項目を見ても，とくに「凝集性」に関しては健康な家族関係と捉えられるため，本研究では，「健やかな家族関係尺度」の 3 つの下位尺度は，「凝集性」と正の相関を示すと予測する。一方，「適応性」に関しては，家族の柔軟性は非臨床群においては高いほど家族が機能していると想定し，これに関しても正の相関を予想する。

次に，「ソーシャルキャピタル」との関連については，地域との繋がりを示す「地域に開かれた家族」との正の相関を予測する。

最後に，親の「養育態度」は，「子どもを健やかに育てる」家族という意味で，本尺度と大きく関連するであろう。「肯定的否定的養育行動尺度」[13]では，Alabama Parenting Questionnaire や Parent Behavior Inventory といった，国際的に幅広く利用されている 4 つの代表的な養育行

動尺度の因子構造や養育行動のメタ分析[14]の結果を踏まえて親の養育態度を包括的に捉え，「関与・見守り」「肯定的応答性」「意思の尊重」からなる「肯定的養育」と「過干渉」「非一貫性」「厳しい叱責・体罰」からなる「否定的養育」といった2側面の養育態度を同定した。「子どもを健やかに育てる家族尺度」の各下位尺度は，「肯定的養育」とは正の，「否定的養育」とは負の相関を示すと予測する。また，「子どもを傷つけない家族」については，否定的養育の中の「非一貫性」「厳しい叱責・体罰」と負の相関を示すと予測する。

分析Ⅲ　子どもの頃の家族関係が青年・成人のメンタルヘルスに与える影響

分析Ⅰ，Ⅱと同一の対象者において，「子どもを健やかに育てる家族尺度」の下位尺度である「子どもを支える家族」「子どもを傷つけない家族」「地域に開かれた家族」という側面からみた子どもの頃に体験した家族関係が，現在のメンタルヘルスにどのような影響を与えているのかを検証する。本来なら，縦断研究により幼児期から児童期の子どもの頃の家族関係と，それらの子どもの成長後の精神的適応を測定するべきであるが，調査方法の限界より，青年・成人が子どもの頃の家族関係を回顧した家族関係と現在の精神的適応との関連を検討する。

まずは，「子どもを健やかに育てる家族尺度」で想定した「子どもを健やかに育てる家族モデル（Figure1）」について，家族の有り様の階層的構造を検討する。次いで，それらの家族関係が，子の現在の精神的適応にどのような影響を与えているのかを検証する。

メンタルヘルスとしては，まず，抑うつを含む包括的な心理社会的適応度を取り上げる。子どもの頃を回顧した「子どもを健やかに育てる家族尺度」下位尺度得点の高さは，現在の抑うつ度や不安の低さと関連すると予測する。

虐待や厳しいしつけを受けると，攻撃的行動や逸脱行動が増えることが指摘されていることから[6]，「子どもを傷つけない子育て」の高さは，外在化問題の低さと関連すると予測する。

また，子どもの頃の親へのアタッチメントは，対人関係のひな型である内的作業モデルとして成長後の対人関係認知に影響を与えることが指摘される。こうしたことから，「子どもを健やかに育てる家族尺度」各下位尺度得点の高さは，青年・成人期の安定したアタッチメントと関連すると予測する。

B.研究方法

分析Ⅰ：方法

2017年2月に，長野県の専門学校において，質問紙調査を行った。質問紙は，授業の合間の時間に教室にて配布し，倫理的配慮の説明後，回答を求めた。再検査信頼性を実証すること，質問項目が多いため1度に全ての調査項目に回答すると回答者の疲労が懸念されることから，調査は，2回に分けて実施した。回収数は，1度目の調査では99部，2度目の調査では　77部であった。1度目の回答所要時間は，15分から25分であった。2度目の調査は，1度目の調査と紐づけできるように連番を打った上で回答者に手渡し，1週間後に郵送していただいた。2回の調査への協力者には，QUOカード1,000円分が後日送付された。

調査協力者　99名の回答者の内，男性は9名，女性は90名であった。年齢は18歳から44歳に渡り，平均年齢は21.57歳（SD4.71），学年は1年41名，2年27名，3年30名であった。子どもの頃に育った地域は，大都市（東京都区部，政令指定都市）1名，中都市①（人口30万人以上の都市）12名，中都市②（人口30万人未満10万

人以上の都市）18 名，小都市（人口１０万人未満の市）30 名，町村 21 名であった。

質問紙

1. フェイスシート　項目は，「性別」「年齢」「学年」「子どもの頃に育った地域」「子どもの頃の家族構成」であった。

2. 子どもを健やかに育てる家族尺度（資料 1）平成 28 年度 厚生労働科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」研究班（研究代表者　山縣然太朗）と「メンタルヘルス不調の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の具体的な連携と対応の整備，及び健やかな親子関係のための妊娠期からはじまる支援施策についての研究」研究班（研究代表者　立花良之）が協働し，子どもを健やかに育てる家族とはどのような家族なのかについてディスカッションを行った。研究班メンバーは，母子保健研究者であった。得られた子どもを健やかに育てる家族関係の各項目およびそれらを K-J 法でまとめた結果（「地域社会と交流の多い親子」，「コミュニケーションが良好な親子」，「子どもの心を大切にする親」）（研究分担者立花良之の報告書参照）を参考に，17 項目からなる質問紙を作成した。教示は，「子どもの頃のあなたの家族についてお答えください」であった。「そう思わない（1 点）」「あまりそう思わない（2 点）」「ややそう思う（3 点）」「そう思う（4 点）」の 4 件法である。

3. 子どもの頃とはどの時期かを問う項目　「子どもを健やかに育てる家族尺度」では，回答者が子どもの頃を想起して回答するよう求めるが，回答者のどの時期を想起するのかは，回答者によって異なるであろう。そこで，「前のページの質問で，『子どもの頃』と読んで，あなたはどの時期を思い浮かべましたか。当てはまるもの全てを〇で囲んでください。」と教示して回答を求めた。選択肢は，「０～３歳頃」「3 歳～6 歳頃」「小学校 1～3 年」「小学校 4～6 年」「中学生」「高校生」「高校卒業後」であった。

統計パッケージ　以下，R3.3.3 および SPSS23AMOS を用いた。

分析Ⅱ：方法

妥当性検証のための尺度　1. FACESⅢ[12]Olson の円環モデルに基づいて家族関係を測定する尺度の日本語版である。「凝集性」「適応性」の 2 軸から，家族機能を捉える。5 件法で，20 項目からなる。**2. ソーシャルキャピタル尺度**[15]「社会的信頼」1 項目（4 件法），「所属意識」３項目（７件法）からなる。英語版を邦訳した。**3. 認知的ソーシャルキャピタル尺度**[16]地域との信頼関係，所属意識，相互援助・相互交流意識など，認知的ソーシャルサポートを測定する尺度である。5 件法で 12 項目からなる。**4. 肯定的・否定的養育態度尺度**[13]「関与見守り」「肯定的応答」「意思の尊重」の下位尺度からなる子ども中心の養育を示す「肯定的養育態度」，「過干渉」「非一貫性」「厳しい叱責体罰」の下位尺度からなる親中心の養育を示す「否定的養育態度」から構成される。4 件法で，35 項目からなる。

分析Ⅲ：方法

尺度　1. PHQ9[17]　Spitzer らが作成した PHQ の中から大うつ病性障害モジュールの質問項目を抽出したものの日本語版である。DSM-5 診断基準に沿ったうつ病の評価尺度で，4 件法，9 項目からなる。**2. 愛着スタイル尺度 ECR-GO**[18]愛着理論に基づき，Bartholomew & Horowitz[19]が作成した愛着スタイル尺度の日本語版である。助けを必要とするときでも他者に頼ることや近接することを回避する心性を示す「親密性の回避（愛着の自己モデル）」，必要とするときに他者から助けや受容が受けら

れるかについて不安を持つ心性を示す「見捨てられ不安（愛着の他者モデル）」の 2 側面から,一般的な他者との関係を捉える。7 件法で，36 項目からなる。　**3. ASEBA 行動チェックリスト成人用自己評価（ASR）** [20]Achenbach らが開発した心理社会的適応状態を包括的に評価するシステム（ASEBA：Achenbach System of Empirically Based Assessment）[21]に基づいて作成された，日本語版成人（18 歳～59 歳）用自己評価式行動チェックリストである。「不安・抑うつ」「引きこもり」「身体愁訴」「思考の問題」「注意の問題」「攻撃的行動」「規則違反的行動」「侵入性」の症状群およびその上位概念としての「外向尺度」「内向尺度」，「全尺度」からなる。あてはまらない（0 点），ややまたはときどきあてはまる（1 点），たいへんまたはよくあてはまる（2 点）の 3 件法で，134 項目からなる。50 点を平均値とした T 得点が算出されるが，本研究での分析では他の尺度同様に本尺度得点を間隔尺度とみなし，分析においては，粗点平均値を使用した。

C.研究結果

分析Ⅰ：結果

項目の選別　回収されたデータについて，天井・床効果が見られた項目が 17 項目中 12 項目であったが，いずれも重要な項目と考えられたので，ひとまず削除しなかった（詳細は，Table 9 参照）。次に項目間相関が特に高い項目では，項目を吟味して 1 項目を削除した（詳細は，Table13 参照）。[脚注1]

因子の確定　上記手続きにより採択された 16 項目について，最尤法・プロマックス回転による因子分析を施した。因子負荷量が複数因子にまたがる項目を削除しながら因子分析を繰り返し，スクリープロットの形状から，3 因子が妥当と考えられ，最終的に 11 項目が採択された（Table1）。なお，各項目の持つ意味を重視し，全尺度項目ベースで行った分析について，付録に示した。

第 1 因子は，「困ったときは親が助けてくれた」等の 5 項目からなり，親が子どもを受容し，コミュニケーションが取れ，親役割が果たされている関係において，子どもが親に精神的に支えられていた家族関係を示していると考えられるため，「子どもを支える家族」因子と命名した。第 2 因子は，「親によく叩かれた」等 3 項目からなり，子どもが親に身体的・精神的に傷つけられた体験を表していると考えられる。本尺度は子どもを健やかに育てる家族の有り方を示したいため，因子名を「子どもを傷つけない家族」とし，本因子の尺度得点については因子負荷量を逆転して算出することとした。第 3 因子は，「私の家族は，困ったときに近所の人と助け合っていた」等 3 項目からなり，家族が地域に開かれている関係を示していると考えられるため,「地域に開かれた家族」因子と命名した。各因子を下位尺度とした下位尺度得点の平均値と標準偏差を Table2 に，各尺度得点間の相関係数を Table3 に示した。

本質問紙で回答者が想定した「子どもの頃」　本尺度の教示で用いた「子どもの頃」に関して，調査協力者がどの時代を想起したのかを聞いた調査の結果（複数回答可）について，各年代の選択・非選択の度数分布をカイ二乗検定で分析すると，双方には有意な関連が見られた（χ^2=261.95, p<.001, df=6）（Table4）。3～6 歳（63.6%），小学 1～3 年(91.9%)，小学 3～6 年(77.8%)を想起したものが有意に多く，0～3 歳(26.3%), 高校生(13.1%), 高校生以降(5.1%)

[脚注1] 尺度項目「親は私のことを信じてくれた」は，「親は私の意志を大事にしてくれた」（r=.73），「困ったときは親が助けてくれた」（r=.73）との相関が高かったため，削除した。

を想起したものは有意に少なく（全て $p<.001$），中学生想起選択の有無には有意差は見られなかった(45.5%)。

再検査法による各因子の信頼性の検討
再検査法の実施を目的として，第一回目の調査実施１週間後に第二回調査を実施した（N=77）。その結果，第一回調査施行時の得点と第二回調査施行時の得点との相関係数は，「子どもを支える家族」因子では $r=.89(p<.001)$,「子どもを傷つけない家族」因子では $r=.79(p<.001)$,「地域に開かれた家族」因子では $r=.73(p<.001)$となり，高い再検査信頼性が実証された。

分析Ⅱ：結果

各因子の構成概念妥当性の検討　「子どもを健やかに育てる家族尺度」の各下位尺度得点と関連尺度得点との相関関係をTable4 に示す。

「子どもを支える家族」では，FACES Ⅲの「凝集性」とは強い正の，「適応性」とは中程度の正の相関が，「認知的ソーシャルキャピタル」とは弱い正の相関がみられた。「肯定的・否定的養育行動」の「肯定的養育」各因子とは中程度の正の相関，「否定的養育」の「非一貫性」とは中程度の負の相関がみられた。

「子どもを傷つけない家族」では, FACES Ⅲの両因子と弱い正の相関，「肯定的・否定的養育行動」の「肯定的養育」各因子と中程度から弱い正の相関，「否定的養育」の「非一貫性」とは中程度の負の相関,「厳しい叱責体罰」とは中程度の負の相関がみられた。

「地域に開かれた家族」では，FACES Ⅲ両因子と中程度の正の相関，「認知的ソーシャルキャピタル」とやや強い正の相関，「ソーシャルキャピタル」の「社会的信頼」と中程度の，「地元帰属意識」と強い正の相関がみられた。「肯定的・否定的養育行動」の「肯定的養育」各因子とは中程度の正の相関，「否定的養育」の「非一貫性」とは中程度の負の相関がみられた。

分析Ⅲ：結果

各尺度の尺度得点平均値（標準偏差）および「子どもを健やかに育てる家族尺度」との相関関係　各尺度得点の平均値および標準偏差は, Table 6 の通りである。ARS に関しては，参考までに T 得点平均値および標準偏差も表記した。また，これらの尺度得点と「子どもを健やかに育てる家族尺度」各下位尺度得点との相関関係は, Table 7 の通りである。

「子どもを健やかに育てる家族モデル」—3 つの下位尺度が子どものメンタルヘルスに与える影響　まず，「子どもを健やかに育てる家族尺度」下位尺度である「子どもを支える家族」「子どもを傷つけない家族」「地域に開かれた家族」という家族の 3 つの側面の階層構造を共分散構造分析により検討した。まず，Figure1 の子どもの頃の家族にみられるような階層構造をこれら３つの家族関係に想定したモデルについて検討すると，適合度指標は $\chi^2=.000$, GFI=1.00, CFI=1.00,　RMSEA=.406, AIC=12 であった。次いで，「子どもを傷つけない家族」「地域に開かれた家族」との間に有意なパスがみられなかったため，「地域に開かれた家族」から「子どもを傷つけない家族」へのパスを消したモデルを作成した。その結果，適合度指標は $\chi^2=.639$,*n.s.*,GFI=.994, AGFI=.966, CFI=1.00,　RMSEA=.000, AIC=10.639 と高く，このモデルを採択することとした。「地域に開かれた家族」は「子どもを支える家族」に中程度の影響を与え，「子どもを支える家族」は「子どもを傷つけない家族」に中程度の影響を与えるといった階層構造が示された（Figure2）。

次いで，これら子どもの頃の家族関係が青年後期・成人期のメンタルヘルスにどの

ような影響を与えているのかを明らかにするために，「子どもを健やかに育てる家族尺度」各下位尺度得点を説明変数，各メンタルヘルス変数を目的変数とした階層的重回帰分析を行った（Table 8）。モデルの適合度は，χ^2=.639,*n.s.*, GFI=.996, AGFI=.957, CFI=1.00,　RMSEA=.000, AIC=18.639 と，高かった。

「子どもを支える家族」尺度得点が高ければ，PHQ，アタッチメントの親密性回避や見捨てられ不安（有意傾向），ARS の全尺度得点，内向尺度得点およびその全下位の不安抑うつ，引きこもり，外向尺度の攻撃的行動，規則違反的行動および，注意の問題得点は低かった。

「子どもを傷つけない家族」得点が高いと，ARS の身体愁訴，外向尺度，侵入性の各尺度得点は有意に低かった。

「地域に開かれた家族」が高いと，ASR の内向尺度引きこもりが低いという有意傾向がみられた。

D.考察

分析Ⅰ：考察

分析Ⅰでは，子どもを健やかに育てる家族の有り様を捉えるための尺度を作成した。その結果，「子どもを支える家族」「子どもを傷つけない家族」「地域に開かれた家族」の 3 因子 11 項目からなる「子どもを健やかに育てる家族尺度」が作成された。尺度の確定に当たって，探索的な因子分析を行った。信頼性は，α係数および再検査法で確認した。信頼性係数は，いずれの方法においても，許容範囲から高い水準にあると考えられた。回答者は，「子どもの頃」として，3～6 歳の幼児期と児童期を主に回顧して回答していると考えられた。これらの検討により，子が捉える子どもの頃の家族を「子どもを健やかに育てる家族」という側面から測定することができる「子どもを健やかに育てる家族尺度」の尺度項目を確定することができた。

分析Ⅱ：考察

分析Ⅱにおいては，尺度を構成する下位因子の構成概念妥当性を検討した。「子どもを健やかに育てる家族尺度」の各下位因子の高さは，互いのつながりが強く柔軟な家族認知の高さ，肯定的で一貫した被養育体験と関連していると考えられた。これらの関連は，「子どもを支える家族」因子で，他の因子よりも強かった。「子どもを傷つけない家族」因子の高さは，厳しい叱責や体罰を受けた経験の少なさと関連していた。また，「地域に開かれた家族」因子の高さは，地域との繋がり，地域への信頼，帰属意識の高さと関連していた。以上，予測通りの結果が見られ，「健やかな親子関係尺度」の３つの下位因子の構成概念妥当性が実証された。

分析Ⅲ：考察

子どもの頃の「子どもを支える家族」「子どもを傷つけない家族」「地域に開かれた家族」の 3 つの側面から捉えた「子どもを健やかに育てる家族」は，青年後期・成人期の子のメンタルヘルスに影響を与えていた。

家族が地域とのつながりを持つことは，親が子どもを支える家族を形成することを促し，そうした家族の有り様を媒介して子どもを傷つけない子育てを促して，成長後の子のメンタルヘルスを高めると考えられた。成長後の子のメンタルヘルスへの直接的影響としては，引きこもりを低下させる傾向が見られた。

また，子どもを受容し，コミュニケーションを取って親役割を果たすことができる子どもを支える家族であることは，青年後期・成人となった子のメンタルヘルスを多方面に渡り支えていた。抑うつや外在化・

内在化問題への影響のみでなく，親密性回避への影響がやや強く，子どもの頃家族に支えられていたという認識を持つことは，自分が他者から愛されるに足る人間であるという自信にも繋がると考えられた。

子どもを傷つけない家族であることの青年後期・成人となった子のメンタルヘルスへの影響は，身体愁訴や外在化問題に見られた。被虐待体験は，子どもの逸脱行動を高めるという知見と合致する。子どもを傷つけない家族であることによる侵入性への抑制的影響は，虐待の影響として指摘される愛着障害の脱抑制社交障害の症状と類似する，無分別な社交性を示していると考えられる。

付録：子どもを健やかに育てる家族の有り様を表すと想定した 17 項目全てについての分析

「子どもを健やかに育てる家族」を想定して作成した尺度項目 17 項目について，各項目の持つ意味を重視し，項目ベースで妥当性，メンタルヘルスとの関連を検討した。

まず，「子どもを健やかに育てる家族尺度」各項目（全 17 項目）の平均値と標準偏差をまとめた（Table9）。その結果，天井効果・床効果が見られる項目が多かったが，これらは全て健康な方向への偏りであったため，サンプルの健常性を示していると考えられた。

次に，「子どもを健やかに育てる尺度」各項目得点と妥当性検証変数との相関を分析した（Table10）。「子どもを健やかに育てる家族」と想定した 17 項目の内，「地域に開かれた家族」に関連する項目はソーシャルキャピタルと関連し，「子どもを支える家族」に関連する項目は適応的な家族の構造（FACESⅢ），肯定的養育態度と関連し，「子どもを傷つけない家族」に関連する項目は厳しい叱責体罰と関連すると考え，項目別でこれらの変数との相関をみた。その結果，作成した尺度項目は，「子どもを健やかに育てる家族尺度」の 3 因子と関連があることがわかった。

次いで，同各項目とメンタルヘルス変数との相関をみると，各尺度項目が，PHQ（うつ），アタッチメント，心理社会的適応（ARS）と関連することがわかった（Table11）。

「子どもを健やかに育てる家族尺度」で回答者が選択した「１あてはまる」「２．あまりあてはまらない」「３．ややあてはまる」「４．あてはまる」の選択肢毎に見た，PHQ,アタッチメント，心理臨床的問題（ARS）平均値は，Table12 の通りである。

そして全 17 項目間の相関を見ると，相関係数が 0.7 を上回る高い相関係数を示す項目があった（Table13）。

各尺度項目ベースでの得点の偏りは，サンプルの偏りと考えられるが，今後検証していく必要がある。

引用文献・出典

1. Kawachi, I., S.V. Subramanian, and D. Kim, *Social capital and health*, in *Social capital and health*. 2008, Springer. p. 1-26.
2. Baker, C.N. and M. Hoerger, *Parental child-rearing strategies influence self-regulation, socio-emotional adjustment, and psychopathology in early adulthood: Evidence from a retrospective cohort study.* Personality and individual differences, 2012. **52**(7): p. 800-805.
3. Macfie, J., et al., *Independent influences upon mother–toddler role reversal: infant–mother attachment disorganization and*

role reversal in mother's childhood. Attachment & Human Development, 2008. **10**(1): p. 29-39.
4. Steinberg, L., et al., *Impact of parenting practices on adolescent achievement: Authoritative parenting, school involvement, and encouragement to succeed.* Child development, 1992. **63**(5): p. 1266-1281.
5. Gershoff, E.T., *Corporal punishment by parents and associated child behaviors and experiences: a meta-analytic and theoretical review.* Psychological bulletin, 2002. **128**(4): p. 539.
6. Fergusson, D.M. and M.T. Lynskey, *Physical punishment/maltreatment during childhood and adjustment in young adulthood.* Child abuse & neglect, 1997. **21**(7): p. 617-630.
7. Olson, D.H., *Family inventories: Inventories used in a national survey of families across the family life cycle*. 1992: Family Social Science, University of Minnesota.
8. Touliatos, J., B.F. Perlmutter, and M.A. Straus, *Handbook of family measurement techniques: Abstracts*. Vol. 1. 2001: Sage.
9. Miller, I.W., et al., *The McMaster family assessment device: reliability and validity.* Journal of Marital and Family Therapy, 1985. **11**(4): p. 345-356.
10. Green, R.G., et al., *Evaluating FACES III and the Circumplex Model: 2,440 families.* Family Process, 1991. **30**(1): p. 55-73.
11. Green, R.G., et al., *The wives data and FACES IV: Making things appear simple.* Family Process, 1991. **30**(1): p. 79-83.
12. 草田寿子, *日本語版 FACES3 の信頼性と妥当性の検討.* カウンセリング研究, 1995. **28**(2): p. p154-162.
13. 伊藤大幸, et al., *肯定的・否定的養育行動尺度の開発: 因子構造および構成概念妥当性の検証.* 発達心理学研究, 2014. **25**(3): p. 221-231.
14. Kawabata, Y., et al., *Maternal and paternal parenting styles associated with relational aggression in children and adolescents: A conceptual analysis and meta-analytic review.* Developmental Review, 2011. **31**(4): p. 240-278.
15. Fujiwara, T. and I. Kawachi, *Social capital and health: a study of adult twins in the US.* American journal of preventive medicine, 2008. **35**(2): p. 139-144.
16. Fujiwara, T., et al., *Does Caregiver's Social Bonding Enhance the Health of their Children?: The Association between Social Capital and Child Behaviors.* Acta Medica Okayama, 2012. **66**(4): p. 343-350.
17. 村松公美子, *Patient Health Questionnaire (PHQ-9, PHQ-15) 日本語版および Generalized Anxiety Disorder-7 日本語版: up to date.* 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究, 2014(7): p. 35-39.
18. 中尾達馬 and 加藤和生, *"一般他者"を想定した愛着スタイル尺度の信頼性と妥当性の検討.* 九州大学心理学研究, 2004. **5**: p. 19-27.
19. Bartholomew, K. and L.M. Horowitz, *Attachment styles among*

young adults: a test of a four-category model. Journal of personality and social psychology, 1991. **61**(2): p. 226.
20. 船曳康子 and 村井俊哉, *ASEBA 行動チェックリスト（18~ 59 歳成人用）の標準値作成の試み*. 臨床精神医学, 2015. **44**(8): p. 1135-1141.
21. Achenbach, T.M., P.A. Newhouse, and L. Rescorla, *Manual for the ASEBA older adult forms and profiles*. 2004: ASEBA.

E. 結論

本研究は，子どもを健やかに育てることができる健やかな家族とはどのような家族なのか，そして家族での被養育体験が，子どもの成長後にどのような影響をもたらすのかを明らかにすることを目的とした。

まず，「子どもを支える家族」「子どもを傷つけない家族」「地域に開かれた家族」の 3 つの側面から家族関係を捉える「子どもを健やかに育てる家族尺度」の信頼性・妥当性を実証した。

次いで，これら家族関係の 3 つの側面には，「地域に開かれた家族」が「子どもを支える家族」に影響を与え，「子どもを支える家族」が「子どもを傷つけない家族」に影響を与えるという階層構造があり，こうした階層構造を持つ家族関係が子のメンタルヘルスに影響を与えるという，「子どもを健やかに育てる家族モデル」の適合度が高いことを実証した。そして，子どもの頃の家族の有り様が，青年後期・成人期の子のメンタルヘルスに様々な影響を与えていることを明らかにした。

「子どもを健やかに育てる家族モデル」の適合度は高かったものの，本研究の結果には，子どもの頃の回顧法という研究法の問題があり，重決定係数は高いとは言えなかった。しかし，子どもの頃を振り返って捉えた家族関係が現在のメンタルヘルスに与える影響としては，看過できない大きさであると考える。本研究の結果は，限られたサンプルに対する調査に基づくものであるため，結果の一般化には注意を要する。今後，より多様なサンプルへの調査が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

資料 1.

【質問紙：子どもを健やかに育てる家族尺度】

※お子様が子どもの頃のあなたの家族についてお答えください。

次の項目について，最もよくあてはまると思うところに，☑をつけてください。

		そう思わない	あまり そう思わない	ややそう思う	そう思う
1	私は子どもの意思を大事にした。	□	□	□	□
2	私の家族は、地域の活動（祭り、防災訓練等）に積極的に関わっていた。	□	□	□	□
3	私は子どものことを信じた。	□	□	□	□
4	私は子どもをよくたたいた。	□	□	□	□
5	子どもが困ったときは，私が助けてあげた。	□	□	□	□
6	私の家族は、困った時に、よく近所の人と助け合っていた。	□	□	□	□
7	私は，子どもの気持ちをわからなかった。	□	□	□	□
8	私は子どもによく怒鳴った。	□	□	□	□
9	私は子どもに過剰に干渉していた。	□	□	□	□
10	友達を家に呼んだり友達の家に遊びに行ったりした。	□	□	□	□
11	私は、親としての責任をしっかり果たしていた。	□	□	□	□
12	私は子どもをよくひどい言葉で傷つけた。	□	□	□	□
13	子どもは，私が近くにいると緊張した。	□	□	□	□
14	私の家族は，他の人との交流が少なかった。	□	□	□	□
15	会話の多い家族だった。	□	□	□	□
16	私は，しつけのために子どもをたたくことはなかった。	□	□	□	□
17	子どもは，自分の気持ちを私に話せなかった。	□	□	□	□

資料 2.

Table1　「子どもを健やかに育てる家族尺度」の因子分析結果（最尤法，プロマックス回転）

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
Ⅰ　子どもを支える家族（α＝.80）			
5.困ったときは，親が助けてくれた。	**0.981**	0.143	-0.144
17.自分の気持ちを親に話せなかった。	**-0.717**	0.037	0.092
1.親は私の意思を大事にしてくれた。	**0.686**	-0.241	-0.096
15.会話の多い家族だった。	**0.568**	0.051	0.136
11.私の親は.親としての責任をしっかり果たしていた。	**0.475**	-0.091	0.085
Ⅱ　子どもを傷つけない家族（逆転）（α＝.85）			
4.親によくたたかれた。	-0.019	**0.928**	0.105
8.親によく怒鳴られた。	0.066	**0.828**	-0.066
16.親は，しつけのために私をたたくことはなかった。	-0.087	**-0.736**	0.066
Ⅲ　地域に開かれた家族（α＝.67）			
6.私の家族は.困った時に，よく近所の人と助け合っていた。	-0.208	0.038	**1.069**
14.私の家族は，他の人との交流が少なかった.。	-0.155	0.097	**-0.432**
2.私の家族は，地域の活動，祭り，防災訓練等に積極的に関わっていた。	0.187	0.148	**0.388**
Ⅰ	―	0.148	0.634
Ⅱ		―	0.419

Table2「子どもを健やかに育てる家族尺度」下位尺度得点の平均値と標準偏差

	子どもを支える家族	子どもを傷つけない家族	地域に開かれた家族
平均値	3.33	2.89	3.20
標準偏差	0.62	0.94	0.66

Table3「子どもを健やかに育てる家族尺度」下位尺度得点間の相関係数

	Ⅰ 子どもを支える家族	Ⅱ 子どもを傷つけない家族	Ⅲ 地域に開かれた家族
Ⅰ	―	0.30***	0.59***
Ⅱ		―	0.11

$^{*}p<.05$　$^{**}p<.01$　$^{***}p<.001$

Table4 「子どもの頃とは？」に対して想起した年代分布

		0-3歳頃	3歳-6歳頃	小学校1-3年	小学校4-6年	中学生	高校生	高校卒業後
選択								
	度数	26	63	91	77	45	13	5
		(26.26 %)	(63.64 %)	(91.92 %)	(77.78 %)	(45.45 %)	(13.13 %)	(5.05 %)
	調整済み残差	-4.29 ***	3.76 ***	9.86 ***	6.81 ***	-0.16	-7.12 ***	-8.87 ***
非選択								
	度数	73	36	8	22	54	86	94
		(73.74 %)	(36.36 %)	(8.08 %)	(22.22 %)	(54.55 %)	(86.87 %)	(94.95 %)
	調整済み残差	4.29 ***	-3.76 ***	-9.86 ***	-6.81 ***	0.16	7.12 ***	8.87 ***
計		99	99	99	99	99	99	99

$^{*}p<.05$　$^{**}p<.01$　$^{***}p<.001$

資料 3.

Table5「健やかな家族関係」尺度下位尺度の妥当性（関連尺度との相関係数）

	子どもを支える家族	子どもを傷つけない家族	地域に開かれた家族
FACESⅢ			
凝集性	0.65 ***	0.32 ***	0.51 ***
適応性	0.48 ***	0.30 *	0.42 ***
認知的ソーシャルキャピタル	0.34 **	0.11	0.60 ***
ソーシャルキャピタル			
社会的信頼	0.26	0.14	0.46 *
地元帰属意識	0.33	0.05	0.67 **
肯定的・否定的養育態度			
肯定的養育態度			
関与見守り	0.56 *	0.17 **	0.47 ***
肯定的応答	0.66 **	0.30 ***	0.45 ***
意思の尊重	0.58 *	0.48 ***	0.49 ***
否定的養育態度			
過干渉	-0.33	-0.31	-0.23
非一貫性	-0.59 ***	-0.46 ***	-0.41 ***
厳しい叱責体罰	-0.41	-0.55 ***	-0.21

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

Table 6　各尺度得点平均値および標準偏差

				ARS　T得点（参考）	
	平均値	標準偏差	得点範囲	平均値	標準偏差
PHQ（抑うつ）	1.63	0.61	1～4		
ECR-GO（アタッチメント）					
親密性回避	3.91	1.07	1～7		
見捨てられ不安	3.25	1.20	1～7		
ASR（行動チェックリスト）					
全問題尺度	0.46	0.26	0～2	55.01	10.44
内向尺度	0.51	0.33	0～2	53.75	9.99
不安抑うつ	0.66	0.43	0～2	56.49	8.17
引きこもり	0.49	0.37	0～2	54.97	6.19
身体愁訴	0.30	0.34	0～2	54.45	7.95
外向尺度	0.39	0.27	0～2	53.63	9.75
攻撃的行動	0.44	0.35	0～2	55.40	7.80
規則違反的行動	0.26	0.25	0～2	54.92	5.73
侵入性	0.52	0.43	0～2	56.91	6.52
思考の問題	0.24	0.29	0～2	57.49	8.59
注意の問題	0.63	0.36	0～2	57.31	7.82

資料 4.

Table7「子どもを健やかに育てる家族尺度」下位尺度得点と精神的適応尺度得点との相関関係

	子どもを支える家族	子どもを傷つけない家族	地域に開かれた家族
PHQ（抑うつ）	-0.53 ***	-0.21 †	-0.41 ***
ECR-GO（アタッチメント）			
親密性回避	-0.51 ***	-0.06	-0.25 *
見捨てられ不安	-0.24 *	-0.10	-0.13
ASR（行動チェックリスト）			
全問題尺度	-0.42 ***	-0.18	-0.31 **
内向尺度	-0.48 ***	-0.16	-0.39 ***
不安抑うつ	-0.37 ***	-0.09	-0.29 *
引きこもり	-0.55 ***	-0.09	-0.47 ***
身体愁訴	-0.31 **	-0.26 ***	-0.25 *
外向尺度	-0.28 *	-0.26 *	-0.18
攻撃的行動	-0.40 ***	-0.19 †	-0.31 **
規則違反的行動	-0.34 **	-0.24 *	-0.19
侵入性	0.20 †	-0.20 †	0.21 †
思考の問題	-0.16	-0.04	-0.07
注意の問題	-0.35 **	-0.11	-0.28 *

† $p<.1$ * $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

Table 8 「子どもを健やかに育てる家族モデル」 回帰係数

	地域に開かれた家族	子どもを支える家族	子どもを傷つけない家族	
	β	β	β	R^2
PHQ（抑うつ）	-.157	-.416 ***	-.068	.300
ECR-GO（アタッチメント）				
親密性回避	.091	-.597 ***	.109	.276
見捨てられ不安	.023	-.249 †	-.025	.060
ASR（行動チェックリスト）				
全問題尺度	-.105	-.337 *	-.067	.186
内向尺度	-.164	-.377 **	-.030	.252
不安抑うつ	-.112	-.309 *	.018	.145
引きこもり	-.211 †	-.443 ***	.065	.333
身体愁訴	-.114	-.189	-.192 †	.141
外向尺度	-.036	-.199	-.194 †	.133
攻撃的行動	-.128	-.295 *	-.090	.176
規則違反的行動	.003	-.300 *	-.152	.139
侵入性	.114	.215	-.274 *	.116
思考の問題	.046	-.195	.014	.028
注意の問題	-.112	-.282 *	-.014	.133

† $p<.1$ * $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

資料 5.

Table9 「子どもを健やかに育てる家族尺度」各項目の平均値・標準偏差

	1.親は私の意思を大事にしてくれた。	2.私の家族は、地域の活動（祭り、防災訓練等）に積極的に関わっていた。	3.親は私のことを信じてくれた。	4.親によくたたかれた。	5.困ったときは，親が助けてくれた。	6.私の家族は、困った時に、よく近所の人と助け合っていた。	7.親は，私の気持ちをわかってくれなかった。	8.親によく怒鳴られた。	9.親から過剰に干渉されていた。	10.友達を家に呼んだり友達の家に遊びに行ったりした。	11.私の親は、親としての責任をしっかり果たしていた。	12.親によくひどい言葉で傷つけられた。	13.親が近くにいると緊張した。	14.私の家族は，他の人との交流が少なかった。	15.会話の多い家族だった。	16.親は，しつけのために私をたたくことはなかった。	17.自分の気持ちを親に話せなかった。
平均(AV)	3.47	3.34	3.49	1.87	3.61	2.87	2.06	2.35	2.01	3.35	3.69	1.75	1.68	1.57	3.26	2.77	2.18
標準偏差（SD）	0.77	0.79	0.73	0.99	0.63	0.91	1.04	1.04	1.08	0.80	0.57	0.96	0.99	0.84	0.92	1.19	1.03
AV+SD	4.25	4.13	4.23	2.86	4.24	3.78	3.11	3.39	3.09	4.16	4.26	2.72	2.67	2.41	4.18	3.96	3.21
AV-SD	2.70	2.56	2.76	0.88	2.99	1.96	1.02	1.32	0.93	2.55	3.12	0.79	0.69	0.73	2.34	1.58	1.15
中央値	4	4	4	2	4	3	2	2	2	4	4	1	1	1	4	3	2
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1

Table10 「子どもを健やかに育てる家族」全項目と妥当性検証変数との相関係数

	FACESⅢ		認知的ソーシャルキャピタル	ソーシャルキャピタル		肯定的否定的養育態度					
	凝集性	適応性		社会的信頼	地元帰属意識	関与見守り	肯定的応答	意思の尊重	過干渉	非一貫性	厳しい叱責体罰
1. 親は私の意思を大事にしてくれた。	.527 ***	.397 ***	-.387 ***	-.214	-.366 ***	.341 **	.580 ***	.560 ***	-.485 ***	-.603 ***	-.517 ***
2. 私の家族は、地域の活動（祭り、防災訓練等）に積極的に関わっていた。	.292 **	.172	-.480 ***	-.431 ***	-.607 ***	.319 **	.255 *	.254 *	-.184	-.227	-.098
3. 親は私のことを信じてくれた。	.536 ***	.424 ***	-.433 ***	-.306 **	-.452 ***	.411 ***	.517 ***	.593 ***	-.515 ***	-.632 ***	-.441 ***
4. 親によくたたかれた。	-.215	-.229 *	-.031	-.073	-.039	-.099	-.200	-.392 ***	.268 *	.373 **	.425 ***
5. 困ったときは，親が助けてくれた。	.552 ***	.408 ***	-.299 **	-.195	-.328 ***	.511 ***	.477 ***	.508 ***	-.185	-.475 ***	-.206
6. 私の家族は、困った時に、よく近所の人と助け合っていた。	.422 ***	.432 ***	-.603 ***	-.440 ***	-.573 ***	.410 ***	.385 ***	.462 ***	-.207	-.404 ***	-.161
7. 親は，私の気持ちをわかってくれなかった。	-.306 **	-.210	.152	.202	.206	-.288 *	-.244 *	-.301 *	.155	.256 *	.200
8. 親によく怒鳴られた。	-.231 *	-.237 *	.063	.028	-.002	-.211	-.341 **	-.523 ***	.385 ***	.491 ***	.574 ***
9. 親から過剰に干渉されていた。	-.316 **	-.252 *	.161	.044	.110	-.128	-.337 **	-.415 ***	.460 ***	.435 ***	.572 ***
10. 友達を家に呼んだり友達の家に遊びに行ったりした。	.344 **	.307 **	-.289 *	-.305 **	-.322 **	.253 *	.132	.201 ***	-.074	-.391 ***	-.196
11. 私の親は、親としての責任をしっかり果たしていた。	.380 ***	.288 *	-.242 *	-.107	-.223	.474 ***	.444 ***	.319 **	-.168	-.319 **	-.148
12. 親によくひどい言葉で傷つけられた。	-.468 ***	-.417 ***	.284 *	.099	.176	-.369 **	-.477 ***	-.440 ***	.287 *	.568 ***	.517 ***
13. 親が近くにいると緊張した。	-.437 ***	-.372 ***	.419 ***	.118	.334 **	-.373 **	-.445 ***	-.443 ***	.297 *	.478 ***	.389 ***
14. 私の家族は，他の人との交流が少なかった。	-.430 ***	-.369 ***	.296 **	.150	.285 *	-.387 ***	-.406 ***	-.423 ***	.156	.327 **	.235
15. 会話の多い家族だった。	.627 ***	.457 ***	-.322 **	-.330 **	-.375 ***	.395 ***	.487 ***	.370 **	-.158	-.342 **	-.239 *
16. 親は，しつけのために私をたたくことはなかった。	.251 *	.218	-.099	-.135	-.005	.145	.254 *	.371 **	-.169	-.367 **	-.456 ***
17. 自分の気持ちを親に話せなかった。	-.468 ***	-.344 **	.254 *	.194	.224	-.438 ***	-.507 ***	-.466 ***	.266 *	.508 ***	.397 ***

$^{*}p<.05$ $^{**}p<.01$ $^{***}p<.001$

資料 6.

Table11　「子どもを健やかに育てる家族」全項目とメンタルヘルス変数との相関係数

	PHQ	ECR-GO（アタッチメント）		ASR（行動チェックリスト）										
	抑うつ	親密性回避	見捨てられ不安	全問題尺度	内向尺度	不安抑うつ	引きこもり	身体愁訴	外向尺度	攻撃的行動	規則違反的行動	侵入性	思考の問題	注意の問題
1. 親は私の意思を大事にしてくれた。	−.374 ***	−.422 ***	−.169	−.337 ***	−.420 ***	−.331 ***	−.422 ***	−.339 ***	−.220 *	−.290 **	−.275 **	.131	−.178	−.285 **
2. 私の家族は、地域の活動（祭り、防災訓練等）に積極的に関わっていた。	−.270 *	−.143	.018	−.149	−.224 *	−.163	−.250 *	−.187	−.071	−.168	−.067	.164	.057	−.152
3. 親は私のことを信じてくれた。	−.307 **	−.461 ***	−.120	−.356 ***	−.407 ***	−.281 **	−.427 ***	−.389 ***	−.284 **	−.327 ***	−.397 ***	.126	−.227 *	−.315 **
4. 親によくたたかれた。	.134	.060	.065	.199 *	.212 *	.160	.116	.262 **	.245 *	.222 *	.198 *	.163	.109	.056
5. 困ったときは，親が助けてくれた。	−.415 ***	−.510 ***	−.192	−.315 ***	−.352 ***	−.260 **	−.364 ***	−.308 **	−.233 *	−.338 ***	−.295 **	.203 *	−.180	−.310 **
6. 私の家族は、困った時に、よく近所の人と助け合っていた。	−.368 ***	−.203	−.233 *	−.289 **	−.319 ***	−.326 ***	−.319 ***	−.118	−.195	−.265 **	−.201 *	.085	−.113	−.287 **
7. 親は，私の気持ちをわかってくれなかった。	.204	.186	.104	.235 *	.257 **	.196	.254 **	.223 *	.214 *	.241 *	.294 **	−.076	.113	.184
8. 親によく怒鳴られた。	.237 *	.043	.104	.292 **	.255 *	.190	.165	.302 **	.321 ***	.278 **	.334 ***	.158	.190	.230 **
9. 親から過剰に干渉されていた。	.168	.215	−.047 *	.238 *	.241 *	.121	.297 **	.282 **	.228 *	.217 *	.273 **	.036	.206 *	.142
10. 友達を家に呼んだり友達の家に遊びに行ったりした。	−.340 **	−.163	−.312 **	−.310 **	−.263 **	−.278 **	−.213 *	−.118	−.338 ***	−.331 ***	−.285 **	−.167	−.180	−.258 **
11. 私の親は、親としての責任をしっかり果たしていた。	−.436 ***	−.172	−.298 **	−.334 ***	−.350 ***	−.284 **	−.379 ***	−.244 *	−.298 **	−.464 ***	−.270 **	.205 *	−.097	−.306 **
12. 親によくひどい言葉で傷つけられた。	.397 ***	.422 ***	.248 *	.329 ***	.395 ***	.300 **	.321 ***	.399 ***	.266 **	.318 ***	.299 **	−.064	.230 *	.163
13. 親が近くにいると緊張した。	.387 ***	.432 ***	.163 ***	.363 ***	.454 ***	.310 **	.390 ***	.511 ***	.242 *	.295 **	.299 **	−.094	.285 **	.205 *
14. 私の家族は，他の人との交流が少なかった。	.324 **	.237 **	.068	.075	.125	.071	.199 *	.090	.050	.146	.083	−.206 *	.063	.041
15. 会話の多い家族だった。	−.448 ***	−.344 **	−.185	−.316 ***	−.344 ***	−.294 **	−.383 ***	−.204 *	−.244 *	−.337 ***	−.273 **	.143	−.135	−.254 *
16. 親は，しつけのために私をたたくことはなかった。	−.186	−.058	−.086	−.179	−.172	−.129	−.103	−.207 **	−.221 *	−.157	−.168	−.243 *	−.070	−.120
17. 自分の気持ちを親に話せなかった。	.358 **	.439 ***	.142	.218	.284 **	.218 **	.368 ***	.171	.140	.228 *	.205 **	−.197	.068	.189

$^{*}p<.05$　$^{**}p<.01$　$^{***}p<.001$

Table12　「子どもを健やかに育てる家族」各項目選択肢別のメンタルヘルス変数の平均値と標準偏差

メンタルヘルス		選択肢	1.親は私の意思を大事にしてくれた。			2.私の家族は、地域の活動（祭り、防災訓練等）に積極的に関わっていた。			3.親は私のことを信じてくれた。			4.親によくたたかれた。			5.困ったときは、親が助けてくれた。			6.私の家族は、困った時に、よく近所の人と助け合っていた。			7.親は、私の気持ちをわかってくれなかった。			8.親によく怒鳴られた。			9.親から過剰に干渉されていた。			10.友達を家に呼んだり友達の家に遊びに行ったりした。			11.私の親は、親としての責任をしっかり果たしていた。			12.親によくひどい言葉で傷つけられた。			13.親が近くにいると緊張した。			14.私の家族は、他の人との交流が少なかった。			15.会話の多い家族だった。			16.親は、しつけのために私をたたくことはなかった。			17.自分の気持ちを親に話せなかった。		
			度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
PHQ		1	2	2.56	.94	4	2.19	.85	2	2.56	.94	36	1.52	.59	2	2.72	1.18	6	2.50	.71	30	1.44	.43	25	1.46	.60	34	1.52	.56	4	1.83	.47				42	1.42	.41	49	1.44	.48	49	1.47	.39	6	2.46	.77	15	1.70	.46	26	1.43	.45
		2	7	1.83	.66	8	1.89	.74	5	1.82	.71	19	1.68	.62	5	2.29	.74	20	1.77	.65	23	1.76	.68	16	1.56	.51	17	1.64	.54	9	2.19	.85	2	3.11	.63	17	1.74	.59	12	1.98	.68	15	1.82	.77	13	1.78	.58	19	1.85	.74	19	1.54	.37
		3	17	1.92	.79	24	1.62	.57	21	1.77	.73	17	1.86	.67	16	1.68	.67	26	1.42	.35	15	1.73	.48	25	1.77	.57	14	1.79	.63	25	1.67	.65	17	1.88	.70	10	2.01	.83	9	1.77	.59	9	2.10	.82	16	1.73	.77	11	1.52	.48	23	1.73	.71
		4	50	1.46	.45	40	1.52	.56	48	1.51	.50	4	1.36	.28	53	1.51	.49	24	1.52	.59	8	1.76	1.03	10	1.81	.83	11	1.75	.85	38	1.44	.45	57	1.50	.49	7	2.05	.90	6	2.22	.84	3	1.78	1.25	41	1.42	.39	31	1.50	.62	8	2.21	.87
アタッチメント	親密性回避	1	2	6.13	.18	4	4.71	1.76	2	6.13	.18	35	3.80	1.08	2	6.21	.06	6	4.68	1.23	30	3.74	1.03	25	3.95	.98	33	3.79	1.07	4	4.35	1.31				42	3.57	.91	48	3.61	1.01	48	3.73	1.13	6	4.67	1.16	15	3.82	1.04	26	3.51	.93
		2	7	4.46	1.04	8	3.70	1.20	5	4.90	.93	19	3.99	.98	5	5.20	.95	20	4.22	.99	23	3.85	1.04	15	3.72	1.19	17	3.62	1.13	9	3.94	1.59	2	4.58	2.24	16	4.03	.89	12	4.06	.84	15	4.04	.87	13	4.36	1.07	19	4.04	1.01	19	3.58	.90
		3	17	4.19	1.00	24	4.05	1.13	20	4.09	1.15	17	4.07	1.09	15	4.10	1.02	26	3.46	.97	14	4.07	1.17	25	3.85	1.07	14	4.10	.87	25	4.12	1.01	17	4.15	1.05	10	4.43	1.32	9	4.58	.80	9	4.40	.80	15	4.02	1.00	11	4.30	1.26	22	4.24	.93
		4	49	3.64	.97	39	3.78	.91	48	3.63	.88	4	3.67	1.53	53	3.64	.91	23	3.93	1.05	8	4.39	1.12	10	4.22	1.15	11	4.46	1.09	37	3.70	.92	56	3.81	1.04	7	4.92	1.15	6	4.99	1.25	3	4.47	1.35	41	3.61	1.00	30	3.72	1.05	8	5.03	1.26
	見捨てられ不安	1	2	3.09	.04	4	2.96	1.12	2	3.09	.04	35	3.08	1.16	2	4.71	2.25	6	3.79	1.66	30	3.06	1.19	25	3.01	1.20	33	3.26	1.19	4	3.87	.55				42	2.94	1.08	48	3.07	1.14	48	3.12	1.10	6	4.10	1.18	15	3.10	1.32	26	3.19	1.01
		2	7	4.02	1.55	8	3.46	1.21	5	3.64	1.78	19	3.50	1.25	5	3.47	1.81	20	3.64	1.24	23	3.29	1.15	15	3.49	1.11	17	3.17	1.33	9	4.10	1.68	2	6.03	.37	16	3.64	1.06	12	3.67	1.05	15	3.52	1.28	13	3.18	1.51	19	3.72	1.18	19	2.80	1.18
		3	17	3.35	1.36	24	3.19	1.48	20	3.49	1.18	17	3.42	1.23	15	3.35	.93	26	3.01	1.12	14	3.61	1.16	25	3.28	1.33	14	3.69	1.11	25	3.30	1.11	17	3.38	.98	10	3.58	1.26	9	3.27	1.08	9	3.78	1.49	15	3.44	1.12	11	3.02	1.04	22	3.61	1.10
		4	49	3.10	1.09	39	3.27	1.04	48	3.11	1.17	4	2.83	1.27	53	3.14	1.17	23	3.03	1.05	8	3.17	1.49	10	3.40	1.04	11	2.77	1.05	37	2.93	1.07	56	3.11	1.16	7	3.68	1.77	6	3.73	1.94	3	2.30	.94	41	3.07	1.10	30	3.10	1.18	8	3.46	1.81
ASR	全問題尺度	1	3	.73	.29	4	.50	.16	3	.73	.29	49	.40	.24	2	.84	.35	7	.68	.32	38	.37	.22	30	.39	.22	42	.40	.22	4	.63	.09				53	.38	.22	60	.39	.22	61	.44	.25	6	.65	.25	19	.50	.24	32	.42	.28
		2	11	.59	.30	10	.55	.33	7	.57	.30	22	.56	.24	6	.52	.30	28	.53	.25	27	.51	.23	22	.41	.24	22	.48	.28	10	.66	.36	6	.81	.34	24	.55	.25	17	.57	.25	23	.52	.24	17	.51	.25	22	.56	.27	24	.38	.19
		3	25	.54	.28	37	.49	.30	29	.57	.28	22	.47	.26	25	.57	.30	35	.42	.25	23	.55	.27	34	.51	.27	21	.51	.30	34	.49	.27	21	.51	.25	14	.56	.31	14	.53	.30	12	.55	.35	26	.57	.32	16	.45	.30	32	.54	.25
		4	60	.40	.23	48	.42	.23	60	.39	.22	6	.59	.41	66	.41	.22	29	.39	.25	11	.50	.38	13	.61	.31	14	.57	.25	51	.40	.23	72	.42	.24	8	.61	.31	8	.70	.32	3	.27	.23	50	.37	.20	42	.41	.25	11	.54	.33
	内向尺度	1	3	1.03	.34	4	.67	.27	3	1.03	.34	49	.44	.31	2	1.09	.16	7	.81	.35	38	.39	.27	30	.43	.28	42	.42	.27	4	.75	.16				53	.39	.25	60	.39	.26	61	.46	.32	6	.78	.21	19	.53	.31	32	.42	.31
		2	11	.67	.33	10	.63	.41	7	.61	.31	22	.58	.27	6	.62	.30	28	.61	.29	27	.54	.31	22	.46	.33	22	.55	.36	10	.67	.45	6	.92	.40	24	.60	.33	17	.65	.28	23	.59	.27	17	.58	.33	22	.62	.35	24	.43	.26
		3	25	.61	.32	37	.55	.35	29	.64	.35	22	.53	.31	25	.63	.40	35	.43	.30	23	.63	.31	34	.53	.30	21	.56	.36	34	.53	.32	21	.59	.33	14	.62	.36	14	.60	.35	12	.64	.40	26	.62	.38	16	.52	.35	32	.61	.31
		4	60	.41	.28	48	.44	.28	60	.41	.27	6	.73	.55	66	.43	.27	29	.43	.32	11	.57	.47	13	.71	.41	14	.64	.33	51	.44	.30	72	.45	.29	8	.80	.40	8	.90	.38	3	.31	.36	50	.39	.26	42	.44	.30	11	.66	.42
	不安抑うつ	1	3	1.00	.31	4	.72	.24	3	1.00	.31	49	.57	.42	2	1.42	.67	7	.97	.46	38	.52	.39	30	.57	.42	42	.58	.41	4	.94	.09				53	.53	.37	60	.54	.40	61	.60	.42	6	1.02	.45	19	.66	.41	32	.58	.44
		2	11	.90	.48	10	.81	.51	7	.76	.46	22	.79	.40	6	.69	.45	28	.82	.42	27	.72	.40	22	.60	.45	22	.72	.48	10	.96	.69	6	1.16	.50	24	.76	.45	17	.87	.38	23	.79	.36	17	.70	.37	22	.80	.43	24	.51	.34
		3	25	.77	.43	37	.70	.50	29	.81	.46	22	.67	.42	25	.76	.48	35	.58	.41	23	.79	.41	34	.70	.41	21	.71	.48	34	.66	.38	21	.70	.42	14	.80	.51	14	.70	.43	12	.76	.56	26	.80	.50	16	.66	.43	32	.80	.41
		4	60	.55	.39	48	.58	.36	60	.55	.39	6	.81	.58	66	.59	.38	29	.52	.39	11	.67	.57	13	.82	.47	14	.70	.32	51	.57	.38	72	.60	.40	8	.90	.41	8	.99	.45	3	.31	.35	50	.53	.36	42	.59	.43	11	.78	.54
	引きこもり	1	3	.96	.61	4	.67	.16	3	.96	.61	49	.45	.35	2	.89	.47	7	.83	.35	38	.38	.32	30	.45	.33	42	.39	.31	4	.56	.27				53	.38	.31	60	.37	.31	61	.42	.35	6	.76	.33	19	.45	.31	32	.31	.29
		2	11	.63	.28	10	.63	.43	7	.71	.33	22	.52	.30	6	.70	.31	28	.59	.32	27	.49	.35	22	.40	.35	22	.45	.35	10	.63	.48	6	.89	.50	24	.56	.36	17	.62	.32	23	.55	.30	17	.65	.39	22	.63	.42	24	.48	.35
		3	25	.69	.39	37	.55	.36	29	.64	.36	22	.53	.42	25	.66	.43	35	.43	.36	23	.61	.35	34	.51	.36	21	.59	.42	34	.57	.40	21	.64	.39	14	.66	.39	14	.71	.38	12	.76	.44	26	.59	.41	16	.53	.41	32	.60	.36
		4	60	.36	.30	48	.40	.36	60	.37	.31	6	.57	.57	66	.39	.31	29	.38	.37	11	.60	.50	13	.66	.45	14	.69	.39	51	.40	.31	72	.41	.31	8	.69	.51	8	.72	.49	3	.26	.36	50	.35	.29	42	.43	.33	11	.69	.45
	身体愁訴	1	3	1.11	.32	4	.60	.57	3	1.11	.32	49	.23	.27	2	.75	.82	7	.57	.44	38	.21	.30	30	.19	.27	42	.19	.21	4	.60	.54				53	.19	.22	60	.19	.20	61	.28	.36	6	.44	.23	19	.40	.43	32	.25	.29
		2	11	.37	.40	10	.34	.33	7	.30	.28	22	.33	.34	6	.46	.28	28	.31	.26	27	.30	.27	22	.29	.28	22	.36	.44	10	.28	.25	6	.58	.43	24	.39	.32	17	.35	.29	23	.32	.33	17	.34	.41	22	.36	.34	24	.25	.36
		3	25	.31	.31	37	.32	.38	29	.39	.37	22	.31	.24	25	.40	.36	35	.23	.28	23	.41	.37	34	.29	.29	21	.31	.26	34	.30	.31	21	.37	.29	14	.32	.34	14	.37	.38	12	.37	.25	26	.39	.37	16	.31	.36	32	.33	.32
		4	60	.24	.29	48	.25	.28	60	.22	.27	6	.72	.75	66	.23	.30	29	.31	.41	11	.39	.49	13	.59	.54	14	.50	.49	51	.28	.36	72	.26	.34	8	.73	.63	8	.89	.57	3	.33	.36	50	.22	.29	42	.22	.28	11	.45	.48
	外向尺度	1	3	.55	.37	4	.34	.10	3	.55	.37	49	.30	.23	2	.69	.57	7	.50	.35	38	.30	.24	30	.31	.23	42	.33	.25	4	.50	.18				53	.31	.24	60	.33	.24	61	.37	.26	6	.52	.36	19	.44	.23	32	.37	.28
		2	11	.48	.27	10	.46	.29	7	.51	.30	22	.52	.24	6	.35	.31	28	.44	.26	27	.45	.22	22	.29	.20	22	.40	.26	10	.66	.34	6	.74	.38	24	.49	.25	17	.49	.29	23	.44	.28	17	.43	.25	22	.51	.31	24	.31	.20
		3	25	.45	.32	37	.42	.31	29	.49	.29	22	.44	.32	25	.52	.28	35	.39	.29	23	.46	.29	34	.48	.29	21	.44	.30	34	.42	.28	21	.42	.26	14	.51	.32	14	.47	.34	12	.45	.33	26	.50	.31	16	.35	.30	32	.46	.28
		4	60	.35	.24	48	.37	.25	60	.33	.24	6	.47	.34	66	.34	.25	29	.33	.24	11	.43	.39	13	.53	.32	14	.50	.31	51	.32	.22	72	.36	.25	8	.46	.32	8	.51	.31	3	.24	.21	50	.31	.22	42	.33	.24	11	.44	.35
	攻撃的行動	1	3	.76	.58	4	.45	.26	3	.76	.58	49	.33	.31	2	1.04	.86	7	.57	.38	38	.32	.28	30	.36	.33	42	.36	.32	4	.55	.17				53	.32	.30	60	.35	.30	61	.38	.32	6	.68	.53	19	.45	.27	32	.36	.35
		2	11	.58	.34	10	.61	.47	7	.56	.35	22	.59	.34	6	.46	.41	28	.57	.38	27	.50	.33	22	.30	.29	22	.41	.31	10	.73	.48	6	1.08	.50	24	.55	.33	17	.57	.36	23	.56	.38	17	.53	.37	22	.59	.41	24	.38	.28
		3	25	.53	.41	37	.47	.39	29	.58	.41	22	.50	.38	25	.61	.39	35	.40	.32	23	.52	.35	34	.53	.33	21	.56	.42	34	.51	.40	21	.52	.36	14	.62	.42	14	.57	.43	12	.55	.45	26	.57	.40	16	.43	.39	32	.50	.33
		4	60	.36	.30	48	.38	.30	60	.34	.28	6	.51	.49	66	.35	.28	29	.33	.33	11	.53	.56	13	.62	.46	14	.53	.38	51	.33	.25	72	.36	.28	8	.57	.45	8	.62	.43	3	.29	.25	50	.31	.25	42	.37	.33	11	.61	.53
	規則違反的行動	1	3	.42	.34	4	.18	.13	3	.42	.34	49	.21	.24	2	.59	.58	7	.45	.42	38	.16	.17	30	.17	.22	42	.19	.21	4	.34	.14				53	.18	.19	60	.20	.20	61	.24	.23	6	.38	.34	19	.30	.26	32	.22	.24
		2	11	.37	.29	10	.33	.30	7	.44	.28	22	.34	.24	6	.26	.30	28	.29	.25	27	.32	.23	22	.19	.19	22	.28	.25	10	.48	.33	6	.52	.41	24	.36	.28	17	.35	.27	23	.29	.28	17	.30	.28	22	.34	.27	24	.20	.19
		3	25	.33	.32	37	.29	.29	29	.39	.31	22	.28	.23	25	.39	.28	35	.24	.23	23	.33	.26	34	.34	.26	21	.30	.26	34	.28	.23	21	.31	.24	14	.38	.31	14	.34	.31	12	.35	.34	26	.37	.29	16	.24	.20	32	.34	.26
		4	60	.21	.19	48	.24	.22	60	.18	.17	6	.39	.37	66	.21	.20	29	.22	.23	11	.35	.40	13	.39	.29	14	.40	.31	51	.20	.23	72	.23	.23	8	.34	.31	8	.42	.34	3	.15	.14	50	.18	.17	42	.22	.26	11	.31	.34
	侵入性	1	3	.28	.19	4	.38	.37	3	.28	.19	49	.42	.31	2	.08	.12	7	.40	.37	38	.54	.51	30	.46	.38	42	.51	.49	4	.67	.71				53	.53	.46	60	.55	.45	61	.59	.46	6	.39	.58	19	.69	.45	32	.67	.40
		2	11	.45	.40	10	.35	.23	7	.52	.35	22	.69	.40	6	.28	.31	28	.45	.37	27	.54	.36	22	.43	.32	22	.58	.38	10	.83	.76	6	.33	.41	24	.57	.37	17	.53	.48	23	.45	.39	17	.40	.26	22	.62	.55	24	.37	.30
		3	25	.49	.39	37	.51	.43	29	.46	.36	22	.59	.63	25	.51	.35	35	.62	.52	23	.57	.43	34	.62	.51	21	.43	.31	34	.46	.34	21	.39	.32	14	.50	.51	14	.45	.36	12	.39	.34	26	.56	.44	16	.39	.36	32	.58	.52
		4	60	.56	.46	48	.58	.46	60	.57	.47	6	.53	.37	66	.57	.46	29	.51	.38	11	.35	.28	13	.59	.47	14	.63	.47	51	.49	.36	72	.58	.45	8	.40	.27	8	.44	.28	3	.28	.25	50	.56	.45	42	.46	.34	11	.27	.24
	思考の問題	1	3	.53	.25	4	.30	.14	3	.53	.25	49	.23	.33	2	.50	.28	7	.43	.39	38	.21	.36	30	.20	.38	42	.20	.34	4	.23	.05				53	.19	.31	60	.19	.30	61	.23	.32	6	.35	.23	19	.24	.24	32	.24	.39
		2	11	.29	.35	10	.15	.18	7	.31	.34	22	.22	.26	6	.30	.39	28	.21	.19	27	.23	.18	22	.17	.15	22	.19	.22	10	.38	.33	6	.40	.34	24	.25	.20	17	.24	.17	23	.25	.24	17	.22	.28	22	.29	.28	24	.19	.21
		3	25	.26	.24	37	.24	.27	29	.29	.26	22	.24	.18	25	.30	.24	35	.26	.37	23	.27	.27	34	.27	.26	21	.28	.25	34	.29	.37	21	.23	.19	14	.30	.27	14	.27	.27	12	.30	.27	26	.33	.26	16	.25	.23	32	.27	.26
		4	60	.21	.30	48	.26	.34	60	.20	.30	6	.43	.41	66	.21	.30	29	.20	.23	11	.31	.35	13	.38	.31	14	.38	.26	51	.18	.23	72	.23	.31	8	.44	.37	8	.55	.36	3	.23	.25	50	.19	.31	42	.22	.35	11	.28	.27
	注意の問題	1	3	.64	.10	4	.63	.33	3	.64	.10	49	.56	.34	2	.93	.38	7	.90	.47	38	.49	.32	30	.50	.32	42	.56	.30	4	.85	.21				53	.54	.33	60	.55	.30	61	.60	.36	6	.79	.34	19	.67	.38	32	.55	.39
		2	11	.88	.43	10	.81	.45	7	.83	.41	22	.82	.37	6	.78	.49	28	.72	.29	27	.75	.32	22	.64	.35	22	.65	.42	10	.83	.48	6	1.00	.43	24	.76	.33	17	.81	.43	23	.66	.28	17	.72	.33	22	.71	.31	24	.55	.31
		3	25	.72	.39	37	.65	.40	29	.82	.39	22	.57	.32	25	.79	.41	35	.58	.39	23	.73	.43	34	.70	.38	21	.70	.47	34	.65	.38	21	.72	.36	14	.72	.44	14	.67	.35	12	.74	.52	26	.72	.44	16	.62	.42	32	.74	.37
		4	60	.54	.32	48	.57	.31	60	.51	.31	6	.64	.53	66	.54	.31	29	.53	.32	11	.58	.31	13	.72	.41	14	.67	.25	51	.55	.32	72	.57	.34	8	.63	.41	8	.75	.53	3	.36	.15	50	.53	.31	41	.58	.36	11	.67	.31

資料 7

Table13　「子どもを健やかに育てる家族」項目間相関

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1.親は私の意思を大事にしてくれた。	1	.340	.722	-.447	.586	.241	-.464	-.374	-.562	.409	.456	-.606	-.658	-.235	.467	.341	-.510
2.私の家族は、地域の活動（祭り、防災訓練等）に積極的に関わっていた。	.340	1	.293	.071	.304	.448	-.099	.023	-.207	.367	.255	-.167	-.175	-.274	.262	.023	-.143
3.親は私のことを信じてくれた。	.722	.293	1	-.329	.715	.352	-.459	-.337	-.455	.332	.425	-.536	-.577	-.319	.457	.214	-.581
4.親によくたたかれた。	-.447	.071	-.329	1	-.202	.057	.316	.739	.468	-.153	-.249	.617	.553	.197	-.143	-.637	.259
5.困ったときは，親が助けてくれた。	.586	.304	.715	-.202	1	.321	-.393	-.153	-.343	.378	.485	-.431	-.468	-.348	.543	.093	-.559
6.私の家族は、困った時に、よく近所の人と助け合っていた。	.241	.448	.352	.057	.321	1	-.280	-.054	-.091	.220	.313	-.159	-.200	-.480	.386	.035	-.239
7.親は，私の気持ちをわかってくれなかった。	-.464	-.099	-.459	.316	-.393	-.280	1	.425	.409	-.124	-.347	.532	.419	.313	-.342	-.098	.313
8.親によく怒鳴られた。	-.374	.023	-.337	.739	-.153	-.054	.425	1	.568	-.083	-.216	.589	.502	.226	-.181	-.579	.289
9.親から過剰に干渉されていた。	-.562	-.207	-.455	.468	-.343	-.091	.409	.568	1	-.253	-.231	.566	.542	.316	-.291	-.324	.303
10.友達を家に呼んだり友達の家に遊びに行ったりした。	.409	.367	.332	-.153	.378	.220	-.124	-.083	-.253	1	.274	-.233	-.238	-.191	.304	.132	-.259
11.私の親は、親としての責任をしっかり果たしていた。	.456	.255	.425	-.249	.485	.313	-.347	-.216	-.231	.274	1	-.295	-.418	-.260	.406	.121	-.349
12.親によくひどい言葉で傷つけられた。	-.606	-.167	-.536	.617	-.431	-.159	.532	.589	.566	-.233	-.295	1	.704	.343	-.379	-.392	.479
13.親が近くにいると緊張した。	-.658	-.175	-.577	.553	-.468	-.200	.419	.502	.542	-.238	-.418	.704	1	.399	-.433	-.319	.547
14.私の家族は，他の人との交流が少なかった。	-.235	-.274	-.319	.197	-.348	-.480	.313	.226	.316	-.191	-.260	.343	.399	1	-.408	.017	.369
15.会話の多い家族だった。	.467	.262	.457	-.143	.543	.386	-.342	-.181	-.291	.304	.406	-.379	-.433	-.408	1	.096	-.335
16.親は，しつけのために私をたたくことはなかった。	.341	.023	.214	-.637	.093	.035	-.098	-.579	-.324	.132	.121	-.392	-.319	.017	.096	1	-.185
17.自分の気持ちを親に話せなかった。	-.510	-.143	-.581	.259	-.559	-.239	.313	.289	.303	-.259	-.349	.479	.547	.369	-.335	-.185	1

資料8.

資料 9.

Figure

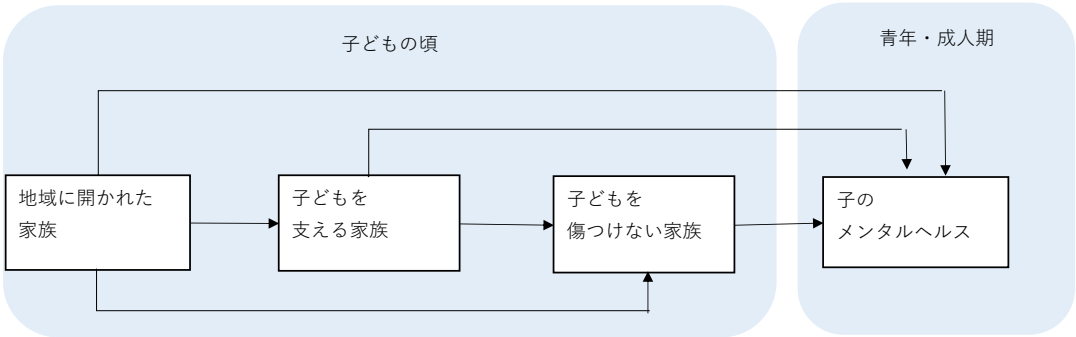


Figure1 子どもを健やかに育てる家族モデル図

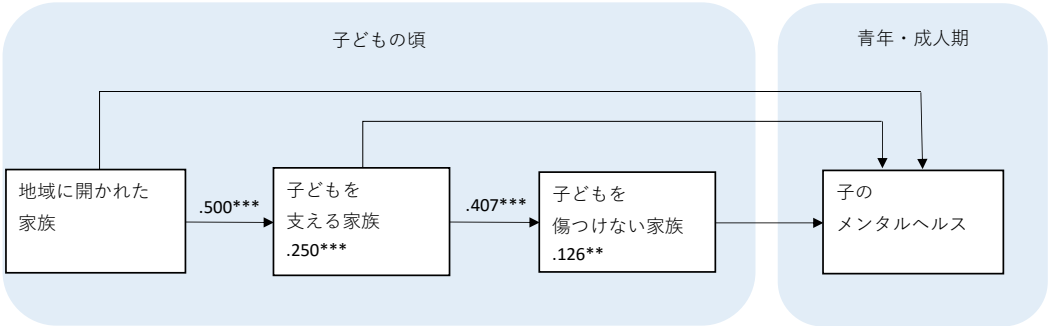


Figure2　子どもを健やかに育てる家族モデル